

令和3年度研究紀要(第53集)

「個別最適な学び」の実現を目指した授業づくり

～授業づくりシステムの構築を通して～

Miyagi
University
of **E**ducation



Affiliated School
for Special Needs Education

宮城教育大学附属特別支援学校

ご挨拶

校長 高田 淑子

私たちが生きる現代社会では、DX（Digital Transformation）化により、社会の在り方や私たちの生活そのものが急激に変化し世の中の価値観や枠組みまでもが変革しています。一方、グローバル化が進み、感染症によるパンデミックや自然災害は、地球規模で影響しますが、科学技術の発展とともに、これらを平和的に解決できるのも人類の英知です。このような急激な変化に柔軟に対応できる持続可能な社会を目指し、障害の有無、ジェンダー、人種や思想などのあらゆる多様性を認め、一人一人が「得意」なことを生かし「人材」として活躍できる共生社会を実現することが期待されます。私たちは、このような時代の中で、障害のある子供たちが日々豊かに幸せに生きるために育成すべき力と方法を検討してまいりました。

令和3年1月には、中央教育審議会が、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』を答申し、「一人一人の児童生徒が自分の良さや可能性を認識し、あらゆる他者を価値のある存在として尊重して、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越えて豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となること」を学校教育に求めました。

本校では、平成29年度に、「自立と社会参加に向けて、児童生徒一人一人の12年間の学びをつなぐ教育活動の在り方」というテーマで、学習指導要領改訂に伴い、12年間の指導内容表を作成・活用した授業研究を行いました。指導内容の連続性を追求する中で、教員同士の連携の必要性も感じました。そこで、平成30年度から、『生きる力』から『みんなで生き抜く力』へのテーマを掲げ、教員同士、児童生徒同士の連携を重視しながら、現代社会で生き抜くための力の育成を目指す授業を追求し、個々の児童生徒がもつ「得意なこと」と「苦手なこと」が互いに補いあえる集団が各個人の能力育成にも寄与すると考えました。児童生徒一人一人に対して、集団の中での「自分らしさ」を生かした相互の「かかわり」の手立てを考え、通常の授業実践で具現化することで、4年間にわたる研究を終結しました。

令和3年度からは原点に立ち戻り、『個別最適な学び』の実現を目指した授業づくり』と題し、学習指導要領を鑑みたカリキュラムマネジメントを実施し、教科の観点を取り込み、一人一人の児童生徒の学びの連続性を重視した授業構築を目的とした研究テーマを掲げました。

今年度は新研究の第1年度として、副題を「授業づくりシステムの構築を通して」とし、教員全員で、我々が目指すべき令和の学校教育における個別最適の指導について検討を重ね、まずは、今後の研究の礎となる個別管理システムの構築による、情報の一元管理と情報共有というDX化を進めました。今まで、各書類や、教員の頭の中に存在していた児童生徒一人一人の学習・生活情報とその流れを整理し、理想とする情報の管理・共有の姿を検討し、システム設計を行いました。学校課程を熟考し、情報の整理と流れが具体的に「見える化」し、深く検討することが「使える」システム構築成功の鍵です。我々が目指すべき目標の具体化、ならびに、個別最適化のためのツールとしての礎を構築し、このツールを利用した授業実践を実施しました。今後の継続的な利活用が期待されます。

今年度の我々の研究を研究紀要第53集としてまとめましたので、是非、ご覧いただき、みなさまの忌憚ないご指導ご意見をいただければ幸いです。

令和3年度 研究紀要 第53集

目 次

ご挨拶	校長 高田 淑子
I 主題設定の理由	1
II 研究の目的	3
III 研究の方法	3
IV 研究組織	4
V 研究計画	4
VI 研究の方法（1年次）	6
VII 1年次の取組	8
「授業づくりシステム」の構築	9
授業づくりの実際について	18
小学部	18
中学部	21
高等部	24
VIII 1年次の実践のまとめと2年次への展望	26
資料 各学部の実践授業の指導案と「授業づくりシート」	
おわりに	副校長 門 脇 恵
研究同人	

「個別最適な学び」の実現を目指した授業づくり

～授業づくりシステムの構築を通して～（1年次）

I 主題設定の理由

1) 前研究の成果と課題から

本校では、平成30年から令和2年までの3年間、「『生きる力』から『みんなで生き抜く力』へ」をテーマに研究に取り組んできた。本校で今、児童生徒に育みたい力を「みんなで生き抜く力」とし、先行き不透明な現代社会においても、障害の有無によらず個々が支え合い、たくましく生きていくための力として設定した。その具体は、目標を達成するために適切に他者に支援を求めたり、自分の得意なことを生かして周囲と主体的にかかわったりといった、本校職員の児童生徒へのねがいが根幹となった力である。一人一人の卒業後の生活を見据え「自身の強みを生かし、弱みを互いに補い合うこと」ができることをねらいとした。その結果、受け身だった生徒が主体的に強みを発揮する姿や、他者とかかわることが少なかった児童が他者と協力しながら活動に取り組む姿が見られるなど、子どもたちが力強く変容していく姿が見られた。その一方で、すべての児童生徒に学びを保障するためには、児童生徒の十分な実態把握と教科ごとに育成を目指す資質・能力をより整理して、教師間で共通理解を図りながら指導を行う必要性等が反省として挙げられた。このことから、個々の児童生徒の実態をより細かく分析的に捉え、将来の自立と社会参加に向けて必要となる資質・能力を計画的に育むことが課題として残った。

2) 特別支援教育にかかわる動向から

(1) 学習指導要領改訂の方向性

平成29年の学習指導要領改訂¹では、社会に開かれた教育課程の実現を目指し、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念のもと、それぞれの学校においてどのような資質・能力の育成を目指すかを教育課程において明確にすることの重要性が確認された。同時に、育成を目指す資質・能力を「どのように学ぶか」という視点の重要性についても触れられ、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善の必要性についても引き続き言及している。また、それらを具現化するための取組として、教育課程の改善と授業改善を継続的に行うために、教育課程を実施するうえで不可欠となる、人的・物的な体制の確保をはじめとした、学校組織全体でカリキュラム・マネジメントを推進していくことの必要性についても述べられている。また、インクルーシブ教育システム推進の観点から、特別支援学校と小・中・高等学校の教育課程の連続性を確保する方針が打ち出され、各教科の内容と目標が整理されたことも大きな変化の一つである。

(2) 中教審答申「令和の日本型教育の構築を目指して」

令和3年の中教審答申「令和の日本型教育の構築を目指して」では、「指導の個別化」と「学習の個性化」の二つの柱からなる「個別最適な学び」の実現を目指すことの重要性が述べられた。「指導の個別化」や「学習の個性化」の視点は特別支援教育でこれまで大切にされてきた、「個に応じた指導」と共通する部分が多く、いわば学校種にかかわらず、すべての学校現場において同様にこの考え方をもち、実践し

ていくことの大切さがあらためて確認されたと言える。また、これらの学びを進めるうえで、ICTを使用することで得られるデータを活用し、学習履歴（スタディ・ログ）や生活・健康面の記録（ライフログ）等、児童生徒に関する様々なデータを可視化して、指導を工夫していくことの重要性についても述べられた。

3) 先行研究との関連から

各校で育成を目指す資質・能力と各教科で育成を目指す資質・能力の関係性について、田淵・佐々木(2020)ⁱⁱらは「学校教育目標の実現には、各教科等の枠組みを踏まえて育成する資質・能力と、それらを教科横断的な視点で捉えて育成する資質・能力という2層の構造が重要である」と述べている。さらに「教科横断的視点（マクロの視点）で単元を通してどのような資質・能力を育成したいのかを明らかにし、そのために必要な各教科等で育成される資質・能力が何か（ミクロの視点）を個別に具体化し、実践を行う」ことで学校教育目標で育成を目指す資質・能力が育まれるという構造についても述べている。これらの視点は各教科等を合わせた指導における「育成を目指す資質・能力」をイメージしたものであるが、教育課程が学校教育目標を実現することを前提として編成されることから、発展的に捉えることが可能である。つまり、各教科で育成を目指す資質・能力と、学校ごとに教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力は、相互に関連し合いながら計画的に達成を目指す必要がある。これらの視点は、従来から指摘がされてきた「各教科等を合わせた指導」のもつ「各教科の視点の不明瞭さ」や「教科等の教育内容が十分に定着したかどうかを記載することを教師が自覚しにくいⁱⁱⁱ」といった課題に対する改善策であり、現行学習指導要領で各教科等を合わせて指導を行う場合においても、各教科等で育成を目指す資質・能力を明確にすることが強調されたことから重要な視点である。

4) 「個別最適な学び」を実現するために

以上のことから、本研究では本校でこれまで伝統的に実践してきた児童生徒の将来の自立と社会参加を軸として設定してきた教育課程に、各教科の資質・能力の視点を加味することで、児童生徒の学びに生じる変容や、指導を行う教師の変容について検討を行う。また、各教科の資質・能力を教育課程全体をとおして継続的に指導を行うためにはどのような工夫が必要なのか、授業実践とそれらの検証を基に、改善の方向性の手がかりを得ることを目標とする。研究テーマの中心的なキーワードである「個別最適な学び」については、前述の中教審答申で定義付けされた言葉である。学校種にかかわらず教科の視点や指導の個別化の視点を重視するという、今回の改訂学習指導要領の方向性を表す象徴的な言葉と捉えることができる。「指導の個別化」を元来から重視してきた特別支援教育にとって、「個別最適な学び」を実現するうえで最も課題となる点は、“いかにして各教科の資質・能力を育み、子どもたちの将来の自立と社会参加につなげるか”という点である。十人十色の子どもたちを前に、個別最適な学びを目指す取組は、個々の児童生徒の「教育的ニーズ」に応じて学びを調整し、一人一人の将来につながる学びの道筋を描くことに等しい。どのような視点をもって日々の教育活動と向き合うことが我々教師に求められるのか。与えられた課題は大きいですが、子どもたちの豊かな将来に直結する奥深いテーマである。道は険しく思えるが、本校教師一丸となって着実に実践に取り組んでいきたい。

5) 「教育的ニーズ」の把握について

「個別最適な学び」を実現するためには、個々の児童生徒の実態を詳細に把握する必要がある。前研究においても、児童生徒ごとの将来の生活を思い描きながら「強み」と「弱み」を教師集団で考え、授

業づくりのスタートとした。そのことによって、教師間で指導の意図や手立ての有効性について同じ目線で検証を行い、意見を交換しながら授業改善をすすめることができた。本研究においては、さらに各教科の個々の実態を加味し、授業づくりに生かしていく必要がある。その意味で「個々の児童生徒の実態」として含まれる情報量が多く、いかにしてそれらを整理し、実践に生かすかという点が課題となることが予想される。また、大きな懸念事項の一つに「実践の持続性」の視点が挙げられる。これまでも「個々の児童生徒の実態」を把握することに重点を置いた取組は多くの学校で実践されており、実態把握のためのワークシートやチェックリストなどのツールが開発されてきた。本校でもこれまでの実践で数多く試行され、その時々には有効性が得られたツールがある。しかし、その大半は定着に至らず、多くの知見に富んだツールが埋没してしまっているのが現状である。その理由として考えられるのは、その多くはある目的に特化してはいるが、汎用性が低く、一過性のツールとして開発されることが多いということである。さらに、その目的のために新たに記入を行ったり、整理を行ったりなど、業務上の負荷を教師に課すものが多い。上記の課題意識から、本研究では「児童生徒の実態の詳細な把握」と「実践の持続性」を両立するための仕組みとして、ICTを活用したデータベースとして「授業づくりシステム」の構築を目指す。

II 研究の目的

「個別最適な学び」を実現するために必要となる授業づくりの視点を明らかにするとともに、個々の児童生徒の「教育的ニーズ」に基づいた授業づくりのプロセスとその有効性の検証を行う。

III 研究の方法

1) 「授業づくりシステム」の作成と活用

- (1) 「個別最適な学びの実現」に資する、児童生徒の実態把握のツールを作成する。
- (2) 「授業づくりシステム」を活用した授業づくりと実践の評価を行い、授業改善を行う。
- (3) 「授業づくりシステム」を継続的に運用することで、「学習履歴」の蓄積を図る。

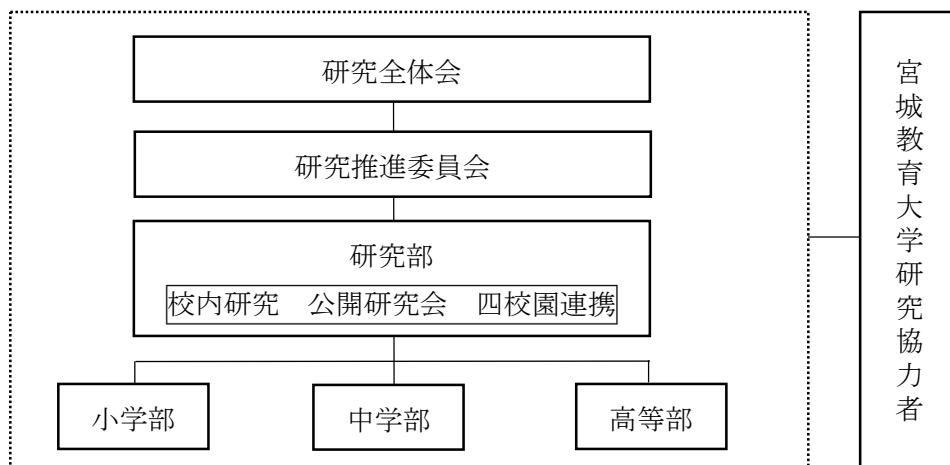
2) 「教師の学び合い」を生かした授業づくり

- (1) 「協働での授業づくり」を行うことで、多面的に授業を考え、評価・改善する視点を養う。
- (2) 「教科の専門性の向上」を図ることで、各教科の資質・能力や他の教科との関連性を意識した授業づくりを行うことを目指す。

3) 「個別最適な学び」を目指した授業実践

- (1) 「各教科等を合わせた指導」において、個々の児童生徒ごとに育成を目指す各教科の資質・能力を明確にし、それらの資質・能力を着実に育むための指導の工夫について検討を行う。
- (2) 各教科の指導において、個々の児童生徒ごとに育成を目指す資質・能力を明らかにし、将来の生活や他の教科の学びにつなげるための指導の在り方について検討を行う。
- (3) 将来の「自立と社会参加に向けた資質・能力の育成」と「各教科の資質・能力の育成」の両立を図るうえで、授業づくりや指導の場面で必要となる実践上の課題の検討を行う。

IV 研究組織



組織の構成と主な活動

組織等名	構成員と主な活動
研究全体会	○全職員 研究の計画・方法・内容などについての共通理解を図り，研究を推進する。
研究推進委員会	○校長，副校長，教頭，教務主任，特別支援教育コーディネーター，学部主事，学部研究推進委員，研究部員 研究の方向性，内容についての検討や各組織間の連絡調整を行う。
研究部	○研究部員 7 名 校内研究の全体的な計画の立案や研究推進の実務を担当する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究の全体的な計画の立案 ・ 主題，目的，研究計画の設定 ・ 学部間の連絡調整 ・ 研究のまとめ ・ 研究推進の実務を担当 ・ 研修会の計画，実施
宮城教育大学 研究協力者	○宮城教育大学特別支援教育講座の教員 1 1 名に依頼 研究の内容，方向性などについて助言をいただくとともに，本研究の連携機関として位置付ける。

V 研究計画

1 研究期間

令和 3 年度から令和 5 年度までの 3 年間とする。

VI 研究の方法（1 年次）

1 年次の実践では本研究の目的である、「個別最適な学び」を実現するために必要となる授業づくりの視点を明らかにするためのステップとして，以下の二つの視点を仮説的に設定した。一つ目が，個々の学びに迫るための素材である学習情報を一元化し，個々の児童生徒の「教育的ニーズ」を“見える化”することである。これにより，単元指導計画で設定した学習集団に対するねらいと，個々の教育的ニーズとを照らし合わせ，個に応じたねらいを焦点化したり，具体化したりなど，各単元における個別のねらいをよりの確に設定することを目指した。

次に、二つ目の視点として、教師の専門性を生かした学び合いを促進することを目指した。教員に求められる資質・能力については多種多様であり、時代に応じて変化し得るものであるという前提に立ち、教師間で指導に関して意見を交換し、互いに学び合うことで児童生徒の指導に生かすことを目標とした。それぞれの視点を仮説的に設定した背景や具体的な取組について述べていく。

1) 視点1「教育的ニーズ」の“見える化”

- 授業づくりシステム（データベース）の作成
- ・個別の教育支援計画，個別の指導計画，単元指導計画の連動
- ・個別の学習履歴の作成と連動
- ・校務のICT化
- ・児童生徒情報の引継ぎの充実と効率化

「個別最適な学び」の実現を目指す際、個々の児童生徒の「教育的ニーズ」をどのようにして捉え、指導に生かしていくのかが非常に重要なポイントとなると考える。この「教育的ニーズ」という言葉は様々な文脈で使われることが多く、具体的な定義がなされていない面がある（横尾，2008^{iv}）。しかし、「実際の教育的な取り組みでは、教員からみた子どもの到達目標（ねらい）、子どもの意欲、保護者の願い、教員集団のコンセンサス、管理職の方針、予算や人員、空間の資源、またそれらの根本をなす教育理念と行政的な方針など様々な要素が絡み合っただけで教育活動が行われている。（中略）これらのどれかを排他的に優先することはできないのである。」（横尾，2008^v）とあるように、子供、保護者、教師、学校、行政などの多くの要素によって「教育的ニーズ」は構成されていくものである。本研究では、上記の記述に加え、現行の特別支援学校学習指導要領解説にある、「児童生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況や経験等を考慮して「教育的ニーズ」を的確に捉え、育成を目指す資質・能力を明確にし、指導目標を設定するとともに、指導内容のより一層の具体化を図る」という記述をもとに、「教育的ニーズ」を把握するための資料として以下の4点が適切に含まれることを目指した。

- (1) 子供、保護者のねがいに関わる情報
- (2) 教員からみた児童生徒の到達目標に関わる情報
- (3) 個々の児童生徒の学習状況や経験に関わる情報
- (4) 学校で育成を目指す資質・能力についての教員集団のコンセンサス（合意・共通理解）が得られる情報

上記の内容から、①個別の教育支援計画（子供、保護者のねがい）、②個別の指導計画（教員からみた児童生徒の到達目標）、③単元指導計画（学校で育成を目指す資質・能力について教員集団のコンセンサスが得られる情報）、④個別の学習履歴（個々の児童生徒の学習状況や経験に関わる情報）の四つを関連付け、授業づくりを行うこととした。また、先に述べた取組の持続性の観点から、①～③については本校で年度当初に作成を行っている既存の資料を用い、④については学習指導要領解説の巻末資料「目標・内容の一覧」を基にデータ化されている、熊本大学附属特別支援学校の「指導内容表」を参考に作成を行った。

2) 視点2「“教師の学び合い”の促進」

- 学部横断での教師の専門性を生かした“学び合い”の充実
 - ・小学部・中学部・高等部の12年間の学びの連続性を図る
 - ・互いに学び合うことで、多面的な視点から指導の充実を図る。
 - ・障害特性や生活年齢を考慮した指導の改善を図る。
 - ・計画的な研修の実施により、持続的に教師の指導力の向上を図る。

「個別最適な学び」の実現を目指すにあたり、児童生徒の「教育的ニーズ」の把握とともに、把握した「教育的ニーズ」を基に、そこからどのようにして育成を目指す資質・能力を明確にし、指導目標の設定や指導内容の充実につなげるかという課題が挙げられる。すなわち、「個々の教育的ニーズを基にどのようにして効果的な指導を行うか」という課題である。この点についても考えるべき点は数多くあるが、本研究では「教師の学び合い」を2つ目の視点とし、授業づくりに生かしたいと考えた。これは本校の人的資源や物的資源の特徴として以下の課題が背景にあると考えているためである。

<物的資源の特徴と課題>

- (1) 各学部の職員室が学校の構造上、空間的に別れている。
- (2) 授業は基本的に学部ごとに行い、ふだんの授業で他学部の児童生徒どうしが学習空間を共有することは少ない。

<人的資源の特徴と課題>

- (3) 20代前半～30代前半の教員が増加し、教職経験の差が大きくなっている。
- (4) 小学校や中学校から転任してくる職員が増加し、多様な背景をもつ教員が在籍している。特別支援学級や特別支援学校での指導経験がない教員が増加している。

このような現状を考え、効果的な指導を持続的に行うためには、人的資源の特徴を踏まえ、課題解決を図ることも重要なポイントであると考え、計画的な研修の機会を設定するとともに、教師間で互いに学び合うことに重点を置いたワークショップ等の実施を計画した。また、本校の特徴である、大学の附属学校としての教育資源を生かし、大学の研究協力者がもつ専門性、さらに教職員それぞれがもつ専門性（教科指導の知識、各学部での指導経験による蓄積、研究領域の専門的知識等）による知見を共有することで指導の充実を図ることを目指した。

1 年次の取組

VII 1年次の取組（令和3年4月～令和4年3月）

1 研究副題 ～授業づくりシステムの構築を通して～

2 目標

「個別最適な学び」を持続的に実践するためのツールとして、「授業づくりシステム」の構築を行い、システムを活用して授業づくりに取り組み、授業改善を図る。

3 研究経過の概要

月	主な活動	内容
4月	研究全体会	・前研究の振り返りと新研究に向けての話し合い
5月	公開研究会準備	・前研究の成果報告の準備
6月	公開研究会 (オンライン開催)	・前研究テーマ 『『生きる力』から『みんなで生き抜く力』へ（最終報告） ・公開研究会で参加者のニーズを把握し、新研究テーマの設定に向けた検討
7月・ 8月	(研究テーマの構想) 研究部会等 研究相談	・学校課題の整理、新研究テーマの検討 ・研究協力者との相談 ・「授業づくりシステム」の試作
9月	研究全体会 (新研究スタート)	・新研究テーマのイメージの共有（研究構想図） ・学部横断型ワークショップⅠの実施 －「授業づくりシステム（試作）」の検討と改善案－
10月	研究部研修会	・「個別最適な学び」を実現するために必要な視点について 教員間で共有を図る。 ・授業づくりに向けた指導案の様式の確認
11月	学部での授業づくり	・指導案の作成等
12月	校内授業研究会 事後検討会	・学部ごとの授業実践（教科等を合わせた指導の形態） 小：生活単元学習（1,2年学級）、中：作業学習（木工班） 高：作業学習（総合サービス業班）
1月	校内授業研の振り返り	・「個別最適な学び」の実現を目指すための視点の整理
2月	研究部会等	・1年次研究のまとめ ・次年度研究計画の検討と研修会の立案
3月	研究部研修会 研究全体会	・附属学校の10年後を考える（教育課程の再編に向けて） ・次年度公開研究会の実施計画について

4 実践内容

1) 「授業づくりシステム」の構築

(1) 「授業づくりシステム」構築のねらい

6 ページの研究の方法で視点として述べたが、個々の児童生徒の「教育的ニーズ」を詳細に把握し、授業づくりを行うためのツールとして、「授業づくりシステム」の作成を行った。試作段階に当たる今年度の基本コンセプトは「既存の資料の効果的な活用」とし、新たに資料を作成することは最小限に留め、①個別の指導計画、②単元指導計画、③個別の学習履歴の三つの資料をデータベースとして連動させることを目標に作成を行った。特に①の個別の指導計画については「作成に掛かる負担に比べて、活用が不十分」といった課題も指摘されており、授業づくりを行うために活用することで、さらなる活用の機会を設定することもねらいの一つとして意図した。

(2) 「授業づくりシステム」の構造

ここからは、「授業づくりシステム」の構造と特徴について述べていく。まず「授業づくりシステム」に含まれる各種データについては、各データへのアクセスの利便性と複数人の同時閲覧を意図し、すべて「Google Workspace」^{vi}のサービスを利用し、ドキュメントとスプレッドシートを用いて作成を行った。「Google Workspace」サービスの利用については、大学として「Google Workspace for Education Fundamentals」に加入しており、個人情報を含む資料をドライブ上で扱ううえで、一定のセキュリティが確保できることを念頭に選択を行った。また、アクセスについては右図の Google サイトを作成し、利便性の確保を意図した。本校ではこれまで文書作成の大半が、Microsoft 社の「Word」や「Excel」^{vii}などのツールを用いているため、利用上の注意事項や、基本的な操作方法を利用マニュアルとして作成した。(図2)

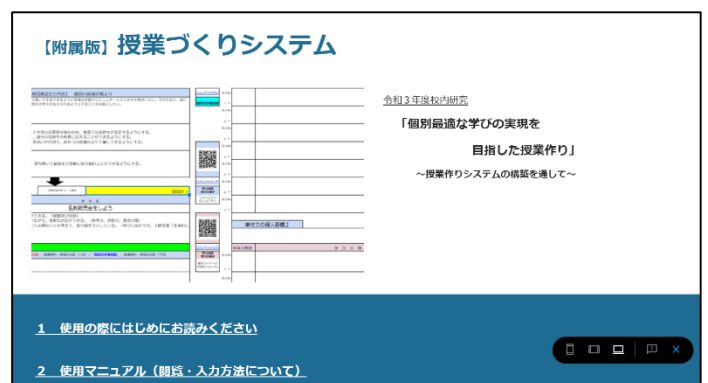


図1 授業づくりシステム サイト画面

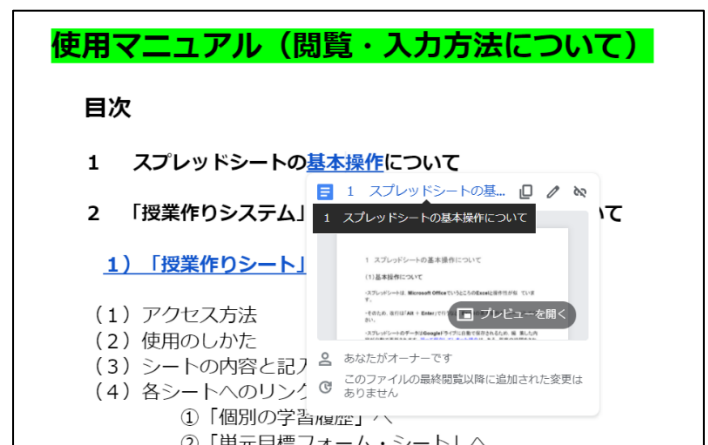


図2 授業づくりシステム 使用マニュアル

(2) 各シートについて

「授業づくりシステム」は大きく分けて、以下の5つのシートで構成している。以下それぞれのシートの特徴について概要を紹介する。

授業づくりシステム

① 個別の指導計画シート

③ 個別の学習履歴シート

② 単元指導計画シート

⑤ 「授業づくりシート」

④ 単元の目標・学びの様子シート

① 個別の指導計画シート

個別の指導計画シートには、従来から本校で作成してきた個別の指導計画の様式に変更を加えずに作成を行った。「本人と保護者の願い」や「長期目標」は個別の教育支援計画の内容から抽出して記載しており、将来の社会生活を意識した願いや目標を読み取ることができる。個別の指導計画シートの図3の破線囲み内を「⑤授業づくりシート」に抽出しており、すべての単元の指導において、必ず意識して指導計画を立てる構造とした。同様に、指導の形態ごとのねらいが、各単元の教科や関連教科によって「⑤授業づくりシート」に

<p>【本人と保護者の願い】</p> <ul style="list-style-type: none"> 周囲の状況に合わせて生活できるように頑張ってもらいたい。 誰にでも理解できるコミュニケーション方法を身に付けてほしい。 家族でも落ち着いた気持ちで過ごせるようになってほしい。 	
<p>【長期目標設定の方針】</p> <p>本人の実態や保護者の願いから、学校、家庭でも落ち着いた生活できるよ環境の把握やコミュニケーションの力を伸ばしたい。そのために、誰にでも理解できるコミュニケーション方法を身に付け、自分の考えを伝えられるようにすることを目標としたい。</p>	
<p>長期目標 (卒業後の目指す姿)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校での活動量を増やすことで生活の充実感を感じ、家庭では気持ちが安定するようになる。 音の出る五十音表等を使って、自分の気持ちを他者に伝えることができるようになる。 身体を清潔に保てるように、手洗いや爪切り、排せつの処理がより丁寧に行えるようになる。
<p>短期目標 (年間の重点課題)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分のすべきことを理解し、落ち着いた気持ちで最後まで活動に取り組みることができるようになる。

図3 個別の指導計画シートの様式①

考とした。この「指導内容確認表」は新学習指導要領で示された教科の目標と内容から、内容の部分のみを抽出して段階ごとに整理されており^{ix}、各教科で指導する内容が一目で連続的に捉えることができ、非常に参考となる。今回作成した個別の学習履歴シートは、個々の児童生徒の教科ごとの実態を把握することを目指し、各内容ごとの達成度を視覚的に表すことを目指した。試作段階では、各内容ごとに「A（達成）・B（概ね達成）・C（未達成）」の3段階で評価を行い、それぞれ緑・青・赤の3つの色で達成度を表すこととした。

(図8)また、評価を行っていない内容(未修事項)はグレーで表され、学習状況が一目で分かるようになっている。さらに、試験的運用段階ではあるが、内容ごとに、取り扱った単元のシート番号と単元内での評価を入力する項目を作成し、単元ごとの習得状況や、年間を通してどのように習得状況が変化していったかといった、学びの足跡を視覚化することを目指した。(図9)

④単元の目標・学びの様子シート

単元の目標・学びの様子シートは、単元内での日々の授業の中で、各児童生徒が単元の目標に対して、どのように学びを深めていったかをエピソード記録として、情報を集積することをねらいとした。授業者が日々の実践をとおして気付いたことを記入することの他に、授業を参観した授業づくりの協力者(他学部教員や研究協力者、外部専門家)等が記入を行うなど、それぞれの立場からの気づきを共有することもねらいとした。そのため、他のシートとは異なり、授業づくりの協力者からのアクセスも許容する形とするため、Google Forms(図10)を用いて、「生徒名」と「シート番号」の2つの情報を入力することで、ここでの記載内容が「⑤授業づくりシート」に反映される仕組みとした。

図7 (参考)「指導内容確認表」

図8 個別の学習履歴シート 評価のイメージ

図9 単元内評価のイメージ

図10 Google フォームでの記入イメージ

⑤授業づくりシート

ここまでで紹介してきた①～④の各シートを集約して表示したのが授業づくりシート（図 11）である。下記の2つのID（個人番号：児童生徒ごとの固有の番号，シート番号：単元ごとの固有の番号）を選択することで、「各児童生徒ごとの，各単元ごとのシート」が表示される。

（下のシートは，生徒A（小学部 11）の単元 a（10001）のシートであり，IDを変更することで，関連情報が自動で表記される。）

図 11 授業づくりシート

個人番号の選択

選択した情報が表示される

図 12 児童生徒の個人番号の選択画面

図 13 単元のシート番号の選択画面

シート番号の選択

ここからは授業づくりシートの構成について述べていく。このシートは先述したとおり、個々の児童生徒の「教育的ニーズ」を把握し、授業づくりに生かすためのツールとして作成した「授業づくりシステム」の中心となるシートである。これまで紹介してきた各種情報を適宜出力し、個々の児童生徒の単元内での目標設定や授業の手立てを考えるうえで必要となる情報に容易にアクセスできることを目標とした。シートを各パーツごとに見ていくと、シート左上には「①個別の指導計画シート」の「本人と保護者の願い」や「長期目標」を表示している。(図 14) これは先に述べたとおり、「個別の教育支援計画」とも共通した内容であり、個々の児童生徒の将来の自立を考えた際に指針となる内容である。

次に、左下部分では単元で育成を目指す資質・能力と関連教科に関わる情報を表示している。(図 15) ここでは、関連する教科・領域ごとに、個別の指導計画で設定したねらい、「個別の学習履歴」で設定した単元で扱う内容とその段階が連動して表示される。(図 16)

氏名	個人番号	学部	学年	番号	名前
性別	3				
【長期目標設定の方針】 個別の指導計画より					
<ul style="list-style-type: none"> 自分の意思を伝えられるようになってほしいという保護者の願いから、実際の場面を活用したり、場を再現したりしながら適切なやり取りを具体的に重ねコミュニケーションの力を高めていきたい。 自立した生活を送ることができるためのスキルを身に付けさせたいという保護者の願いから、様々な経験の機会を学校生活に取り入れ、生活スキルを伸ばしていきたい。 運動に継続して取り組み、体力の維持向上を図ってきたい。 					
長期目標 (3年後の目標予定)	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな立場の相手と楽しみながら、やり取りをすることができる。 一人でできることを増やし、自立した生活を送ることができる。 積極的に運動に取り組み、健康保持に努めることができる。 				
短期目標 (半期の重点課題)	<ul style="list-style-type: none"> 様々な経験の中から、自立した生活に必要な衣食住の知識やスキルを身に付ける。 				
授業データ	個別の教育支援シート番号				30001
教科・領域	単元名				
【作業学習】	名刺販売会しよう				
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 獲得した事務作業の基礎的な技能を基に、接客の態度など人とのかかわり方を身に付けることができる。(知識及び技能) 素直を通して、状況や場に応じた柔軟な対応ができる。(思考力、判断力、表現力等) 接客への関心をもち、最後まで取り組もうとする。(学びに向かう力、人間性等「主体的に学習に取り組む態度」) 				

図 14 【シート左上】 個別の指導計画との連動

個別の教科の目標	
単元における関連教科・領域	【個別の指導計画】：関連教科・領域の目標(上段) / 【個別の学習履歴】：関連教科・領域の目標(下段)
国語	
高等部1段階	① 話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。エ 相手に伝わるように、言葉の順序や発話、話の取り方などを工夫すること。
算数・数学	
小学部1段階	
社会	
小学部1段階	
職業・家庭	◎ 様々な作業種を経験しながら、自分の適性や課題について考え、必要なスキルを身に付けていく。 ○ 将来の自立した家庭生活に必要な知識・技能を身に付ける。
高等部1段階	◎ 作業や実習における役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現すること。
道徳科	
小学部1段階	
自立活動	◎ 伝えたいことを相手に分かりやすく話したり、相手の話を聞き取ったりする力をつける。(6-2) ○ 生活の中で活用できるように、言葉や顔の理解力を高める。(4-3)

図 15 【シート左下】 教科との関連

職業・家庭	◎ 様々な作業種を経験しながら、自分の適性や課題について考え、必要なスキルを身に付けていく。 ○ 将来の自立した家庭生活に必要な知識・技能を身に付ける。	個別の指導計画
高等部1段階	◎ 作業や実習における役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現すること。	個別の学習履歴

これらの情報を総合して、個々の児童生徒ごとに単元でのねらいを具体化したものが「単元での個人目標」である。(図 17) ここには単元のねらい(単元で育成を目指す資質・能力)をベースとし、関連する各種情報を踏まえたうえで、個人ごとの目標を記入する。つまり、この個人目標が指導に当たる教師にとっては、単元を通して育みたい中心的な資質・能力であると同時に、授業を参観する側の教員にとっては、十分に育まれているかを検証するポイントとなる。

職業分野	高等部									
	① 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる技術について理解すること。									
② 使用する道具や機械等の特性や扱い方を理解し、作業課題に応じて正しく扱うこと。										
③ 作業の確実性や持続性、効率性を高め、状況に応じて作業すること。										
(4) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。										
◎ 作業や実習における役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現すること。								3000	1(未)	
○ 生産や生育活動等に関する技術について考えること。										
◎ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、改善を図ること。										
○ 職業生活に必要な調理管理や多量の過ぎし方について考えること。										

図 16 個別の学習履歴シートとの連動

単元での個人目標 1	単元での個人目標 2
自分の役割を踏まえ、気付いたことや改善点、成長した部分を考え、班員に伝えることができる。	設定なし

図 17 【シート左下】 単元での個人目標

シート右側(図18)には、それぞれの単元での個人目標に対して、授業を通して見られた学びの様子を、授業者または参観者が入力したフォームの内容を介して「④単元の目標・学びの様子シート」に集積し、抽出して表示させている。

単元での個人目標 1		単元での個人目標 2	
汚れを見て掃除をすることができる。		個別の声掛けにより、周りと同じ活動ができる。	

単元での個人目標 1		単元での個人目標 2	
汚れを見て掃除をすることができる。		個別の声掛けにより、周りと同じ活動ができる。	
学習の蓄積	学びの様子		
表示No	2021/12/13	洗濯機を使って、洗濯機にTシャツを入れることができた。洗剤を入れ、水が出て洗濯機が回る様子を見ることができた。濡れたTシャツをハンガーに干すときは、濡れたTシャツを触るのに抵抗があり、ハンガーの滑りが悪いため、教師の手添えが必要だった。	
1 ↓			
表示No	2021/12/14	前日に干したTシャツをハンガーから外して、手でしわを伸ばしながら畳むことができた。端や角を崩れて畳むよう声をかけたが、手元が目線が向かなかつたので、教師が手添えをして一緒に取り組んだ。	
2 ↓			
表示No	2021/12/15	テーブルの汚れを見て、赤い絵の具の汚れを落とさせている。拭く時の力の入れ方は指先で行っているため弱さを感じる。	
3 ↓			
表示No	2021/12/16	絨毯に付いた糸くずを見ながらカーベットクリーナーで掃除をすることができていた。手元を見ていないときには、声掛けをすることで汚れを見て取り組む	
4 ↓			
表示No	2021/12/17	ドライシートのフロアワイパーを使ってガムテープで仕切られた範囲の掃除を行った。糸くずが全部なくなるように床を見ながら取り組むことができた。	
5 ↓			
表示No	2021/12/20	フロアワイパーとじゅうたんにあるごみ(砂)をきれいにするために掃除機を使う活動を行った。床を見ながらごみがある場所とない場所を見分け掃除機をかけることができていた。ゴミが残っている際には、教師やほかの児童からの声掛けにより、汚れを見つけて掃除をすることができていた。	
6 ↓			

単元での個人目標 2	
個別の声掛けにより、周りと同じ活動ができる。	
学習の蓄積	学びの様子
2021/12/13	濡れたTシャツを干す際には、教師の個別の声掛けと手添えにより干すことができた。
2021/12/13	普段の座席は教室後方端だが、示範への注視をねらい、前方端に配置した。独り言を言っていたり、視線が定まらずいるところを見ていたりする様子が多くあったが、T2の声掛けにより、T1の方を向くことができた。
2021/12/14	Tシャツを畳む指示を聞き逃していたので、個別に声を掛けることで活動に取り組むことができた。
2021/12/15	きれいにしたいという意欲をもっており、自分の順番になると個別の声掛けがなくても掃除に取り組んでいた。

図18 【シート右】 単元での個人目標に対する、学びの様子の記入イメージ

その他、活用上の利便性を高めるため、授業づくりシートから、他のシートやフォルダにアクセスするためのリンクを設定している。例えば、授業づくりの過程で、「個別の学習履歴」を確認したいといった場合には、シート中央のリンク、またはQRコードを読み取ることで、対象の児童生徒の情報にアクセスできるよう、リンクとして表示されるURL等も、連動して変更されるように設計を行った。



図19 【シート中央】 各種リンクについて

ワークショップ(16ページ)では授業づくりシステムの試作版を基にシートの構造について検討を行い、どのような構造にすれば、授業づくりに活用できる内容となるかを考え変更を加えていった。図20のようなドライブを作成し、学習教材を個別に保管するといったアイデアも、ワークショップ後に加えた変更点である。現在もなお試験的運用段階ではあるが、実際に活用をすすめながら修正を加え、本格的運用につなげていきたい。



図20 ワークショップ後の改善点について

2) 「授業づくりシステム」構築に向けたワークショップの実施

「授業づくりシステム」の構築に向けて、「授業づくりシステム（試作版）」を基に、「個別最適な学び」を実現するためにシステムの有効な点と、改善点を整理することをねらいとしてワークショップを行った。ワークショップ前の「授業づくりシステム（試作版）」の段階では、11 ページ③の個別の学習履歴シートを作成する前の段階であり、本校でこれまで作成を行っていた各種資料を、連動して表示したのみの段階で検討を行った。

実施方法としては、小学部、中学部、高等部の教員を縦割りグループに分け、各グループに大学の研究協力者が参加し、KJ法を用いて協議を行った。グループごとに有効な点や気づき（赤付箋）、改善案等（青付箋）を付箋に記入し、カテゴリごとに整理し、まとめることで構造化を図った。グループでまとめた模造紙を基に発表を行い、全体で共有を図るという手順で行った。（図 21、22）

「授業づくりシステム」の構築に向けて、運用に向けた期待と不安をざっくばらんに出し合い、意見交換を行うという、形式ばらない雰囲気でのワークショップの実施を目指した。各グループから挙げられた課題の一つとして、システムの構成要素である個別の指導計画や単元指導計画の様式を現行学習指導要領の育成を目指す資質・能力の視点で見直しを図る必要性について意見が出された。また、今年度はシステムに連動させる各資料は本校で使用してきた既存の資料を使用することとし、新たに資料作成を行う負担を軽減することとしたが、生徒の学びの様子を詳細に把握するためには、これまで以上に授業づくりに時間を要することが懸念され、業務負担を解消するための方策についても合わせて検討を求め意見が挙げられた。その他、様々な意見の中でも、授業づくりに関連する資料を一元化し、活用しやすくするという方向性については一様に期待感を抱く教員が多かった。特に、蓄積された情報が児童生徒の学習評価と連動していくことで、PDCAサイクルの循環を形成することができるといった意見が多く挙げられ、「授業づくりシステム」を効果的に活用できる状態を構築することは、すなわち、児童生徒の学びを中核とした授業改善や教育課程の改善といった、カリキュラム・マネジメントの推進に寄与することが期待されることが示唆されたと言える。



図 21 ワークショップの様子

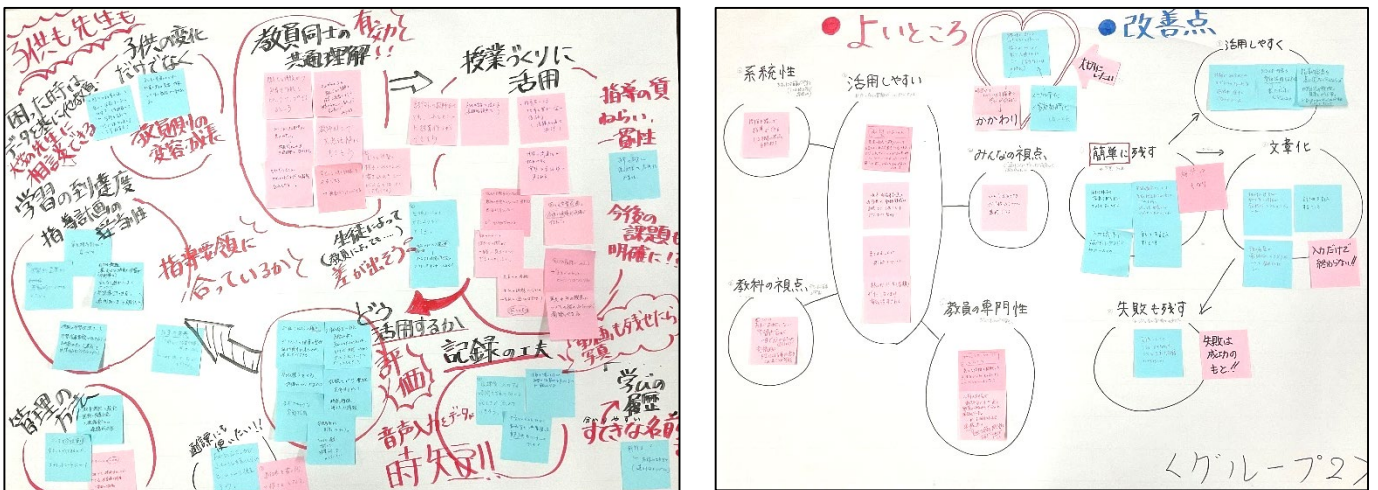


図 22 グループごとのまとめ

ワークショップで出た各グループの意見は、研究部で再度整理し一つにまとめ、研究部通信として職員全体での共有を図った。(図 23)

○メリット ▲課題・検討事項 ◎展望

(上段) 継続的使用の末に期待できる展望

- 学習集団の見直し→集団ありきから実態別へ
- ◎最終的に実態ごとに学習履歴をカテゴリ化
- ◎時々指導の迷いを共有
 - 大学からのアドバイスも適宜行える

(中段上) 運用上の課題

- ▲記入にかかわる業務量の負担増
- ▲システムの維持管理。ノウハウの継承
- ▲入力内容の吟味

(中段下) 授業づくりに活用できるポイント

- 過去の学びの様子、現在の実態、そのような情報を活用することで、個々のねらいが明確化される。
- ▲指導の手立てや評価など、通信表も視野に入れた内容にできるとなよい。

(下段) 学習履歴作成によるメリットと検討事項

- これまで作成してきた資料が1つにまとまることで、見やすくなる。
- 日々の学習の様子が書き込めるのはよい。
- ▲個別の指導計画の見直し、単元指導計画の妥当性の検討など、新学習指導要領の理解を深めながら、実践に落とし込んでいく必要がある。

【上記ライブ内「最終まとめ」より】

図 23 ワークショップのまとめ (研究部通信より抜粋)

このような過程を経て、作成を行ったのが「授業づくりシステム」である。当初の計画では10月を目途に作成を終え、12月の校内授業研究において、授業づくりの過程からの活用を計画していたが、前述のワークショップ後に、新たにシートを作成したり、修正を加えたりと改善を図ったため、授業づくりの冒頭からの活用はできなかった。そのため計画を変更し、事後の授業検討場面において「授業づくりシート」を活用して検討を行うこととした。次からの項では、学部ごとの授業づくりの経緯と、授業実践後の事後検討から得られた、「個別最適な学び」を目指すうえで実践上の課題として挙げられた事項について述べる。

3) 各学部の授業づくりの実際について

(1) 小学部

ア 授業づくりの経緯と「授業づくりシステム」の活用状況について

小学部では、生活単元学習の「おてつだいをしよう」の単元で授業実践を行った。本単元において、児童が将来自立して生活していくために必要な知識や技能を身に付け、家庭生活や学校生活のいろいろな場面でそれらを生かしていけるようにすることをねらいとし授業づくりを行った。本単元は、6月、7月、12月と3期に分かれており、3期目となる本授業は、より家庭生活での取組につながるため、多目的室を一般家庭の部屋を再現した場設にした。また、指導案検討日には学部全体で対象児童の実態や目標設定、手立て、場の設定等を話し合った。「授業づくりシステム」は、授業づくりにおいて本格的な活用まで至らなかったが、「学びの様子シート」の入力を授業者が行い、使用してきての課題等について振り返ることができるようにした。(図24)



単元での個人目標1	
汚れを見て掃除をすることができる。	
学習の過程	学びの様子
2021/12/13	洗濯機を使って、洗濯機にTシャツを入れることができた。洗剤を入れ、水が出て洗濯機が回る様子を見ることができた。濡れたTシャツをハンガーに干すときは、濡れたTシャツを触るのに抵抗があり、ハンガーの濡りが悪いので、教師の手添えが必要だった。
2021/12/14	前日に干したTシャツをハンガーから外して、手でしわを伸ばしながら畳むことができた。雑や角を揃えて畳むよう声を掛けたが、手元に視線が向かなかったので、教師が手添えをして一緒に取り組んだ。
2021/12/15	テーブルの汚れを見て、赤い絵の具の汚れを落とせている。拭く時の力の入れ方は指先で行っているため弱さを感じる。
2021/12/16	雑巾に付いた糸くずを見ながらカーペットクリーナーで掃除をすることができていた。手元を見ていないときには、声掛けをすることで汚れを見て取り組む
2021/12/17	ドライシートのフロアワイパーを使ってガムテープで仕切られた範囲の掃除を行った。糸くずが全部なくなるように床を見ながら取り組むことができた。
2021/12/20	フロアワイパーとじょうたんにあるごみ(砂)をきれいにするために掃除機を使う活動を行った。床を見ながらごみがある場所などを見分け掃除機をかけることができていた。ゴミが残っている際には、教師やほかの児童からの声掛けにより、汚れを見つけて掃除をすることができていた。

単元での個人目標2	
個別の声掛けにより、周りと同じ活動ができる。	
学習の過程	学びの様子
2021/12/13	濡れたTシャツを干す際には、教師の個別の声掛けと手添えにより干すことができた。
2021/12/13	普段の授業は教室後方端だが、示範への注視をわらい、前方端に配置した。雑り音を出していたり、視線が定まらずいろいろなところを見ていたりする様子が多くあったが、T2の声掛けにより、T1の方を向くことができた。
2021/12/14	Tシャツを畳む指示を聞き逃していたので、個別に声を掛けることで活動に取り組みすることができた。
2021/12/15	きれいになりたいという意欲をもっており、自分の順番になると個別の声掛けがなくても掃除に取り組んでいた。
2021/12/16	雑巾を真ん中にする一方で、用具の使い方について示範を行うときには、目の前で行うことで示範に真似を向くことができた。また、用具を使うときには、持ち方を個別に声掛けすることで正しく使って掃除をすることができた。
2021/12/17	フロアワイパーを動かす際には、直進して折り返す場所にシールで印をつけたが、掃除する範囲の全体を拭くのではなく、ごみがある場所だけを拭いていた。計画した活動とはずれたが、ごみを見て掃除をすることが本単元の目標だったのでごみを無くすことに重点をおいて掃除に取り組めるようにした。

図24 学びの様子への記入状況(左:個人目標1, 右:個人目標2)

本実践は、これまでのいわゆる活動主体の「生活科」の文脈から、「各教科等を合わせた指導」の「合わせた各教科等」を意識する機会になった。「生活科」の目標や内容に加え、本時に「国語科」「算数科」「特別な教科道徳」の内容が関連すると捉え、指導案上に明記することができた。このことで、以下の課題が見えてきた。

- ①「各教科等を合わせた指導」において、関連する各教科等の内容の整合性、及び実際の指導につながる指導技術や指導方法を検討すること。
- ②実態把握(関連する各教科の学習状況や習得状況)をより詳細に行い、授業づくりを行うこと。
- ③個別の指導計画の目標、単元目標、児童の本時の目標との関連やつながりをより意識すること。
- ④年間指導計画や単元計画を三観点で整理し、教育課程上のねらいを明確にすること。

これらの課題は小学部だけにかかわらず、中学部、高等部でも共通課題として反省が挙げられ、今後の実践を通して、学校全体でさらに改善につながる共通課題とすることとした。

イ 授業検討で話し合われた内容から

検討会では、言葉の概念を捉えることや価値の共有などの実態把握に関すること、視覚的支援や教

材教具，家庭へのフィードバックなどの環境設定に関することなどが話題として挙げられた。その中で，特に話題が集中した点について以下に述べる。

【実態把握について】

- ・今回の授業は，システムの本格的な活用までには至らなかった。そのため，個別の指導計画や学習指導要領，またふだんの見取りから児童の実態把握を行い，授業を実施した。
- ・児童が注視できるようにするためには，児童が見ている範囲をより意識し，物の提示の仕方や示範の仕方を工夫することで，児童が学習へ向かいやすくなるのではないかという意見が出された。また，「きれい」や「汚れ」，「床」など，学習の基礎となる概念を児童が理解しているのかを押しえて授業を進める必要があるという意見が挙げられた。例えば，「床」という言葉の概念の理解が無ければ，「床を見て」という指示は児童にとって適切ではなく，言葉の概念の形成が大切であると話し合われた。
- ・「きれいな状態」や「汚れている状態」は個人によって捉え方に偏りがあるため，言葉の価値の共有を図る必要があることが挙げられた。
- ・教室での学習から，お手伝いをする多目的室へ移動することで気持ちが切り替えられ，お手伝いへの意識が高まっていたという意見や，多目的室を，家庭を模した空間にすることで，児童が家庭でお手伝いをするイメージをもって活動することができていたという意見が挙げられた。家庭で実際にお手伝いをしてみようという意欲付けになり，家庭へのフィードバックにつながっている。実際に家庭でお手伝いをした児童の連絡帳を発表し，共有することで家庭でのお手伝いの意欲がより高まる手立てとなっていたという意見が挙げられた。

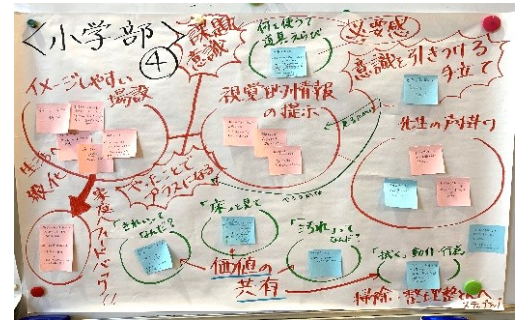


図 25 グループごとのまとめ（小学部）

【環境設定について】

- ・視覚的認知の側面では，研究協力者から「児童は対象に視線を向けていなくても見ていることもあり，視線だけではなく，児童の活動の様子から注視ができていのかを見取ることができる」という意見が出された。
- ・教材・教具では，汚れが見やすく，児童にとって捉えやすいものだったという意見が挙げられた。児童が汚れを自分たちで発見する活動は，家庭でのお手伝いにつながっていく活動となっていた。しかし，汚れの質や量に関しては，児童が実際の家庭での様子をイメージするために適切であったかを振り返る必要があった。また，掃除をする前の汚れた状態と掃除をしてきれいになった状態の変化が見える提示があれば，より児童が達成感を味わうことができたのではないかという課題も挙げられた。



【課題把握について】

- ・何のために活動をしているのかを児童が理解したり，お手伝いをしようと意欲をもって活動したりできる学習の流れを考えることが自発的なお手伝いへとつながっていくのではないかという意見が挙

げられた。教師がやらせたいことではなく、児童が必要感をもって活動に取り組めるような授業づくりをしていく必要がある。本時においては、家庭でのお手伝いの様子を保護者が連絡帳に書き、それを学習の導入場面で紹介したり、実際に保護者からの感謝の声を聞いたりすることで児童の意欲付けにつながっていたという意見が出された。

- ・児童への支援をする際には、児童が実際に掃除を自分一人でできるためにどんな支援が必要かという視点を常にもって活動内容や支援方法を工夫する必要があるという意見が挙げられた。
- ・児童がみんなで力を合わせて1つの活動をするような共同的な活動を設定することで、よりお手伝いをしているといった実感を児童がもてたのではないかという意見も出された。

【教育課程における位置付けについて】

- ・今回は生活単元学習として授業を行ったが、授業内容からみると日常生活の指導として単元化を図ることができ、教育課程における位置付けをあらためて検討し、明確にする必要がある。

ウ 考察

今回の話し合いから、小学部では「個別最適な学び」の実現に向け、実態把握、環境設定、課題把握についての気付きが得られた。実態把握については、学習指導要領と個別の指導計画を基に、ふだん教師が児童の様子を見て授業内容を検討し、支援の仕方や指導内容を吟味し授業を行った。しかし、事後検討では、支援の方法や教師の声掛け、指導内容について課題が挙げられた。これは、個々の児童生徒の学びの様子に着目して授業の検討を行った際、対象となる児童が授業全体を通して「どのようなことを学んでいるか」という点や、「どのような場面で学びが生じているか」という学びの様子を十分に把握しきれていなかった結果と捉えている。その改善には、個別の指導計画やこれまでの学習での様子などを関連させて把握し、分析して授業につなげる必要がある。今後、「授業づくりシステム」を活用し、児童に関わる情報を整理し実態把握に努めていくことで、より児童の学びが深まるよう授業づくりに取り組んでいきたい。その際、小学部低学年であることを踏まえ、言葉や物の概念形成がどこまで進んでいるのかを教師が押さえることについて課題が見られた。「各教科等を合わせた指導」の中で、「国語科」の学習内容を見直し、言葉の学習を取り入れていくことで、「きれい」や「汚い」といったそれぞれがもつ価値観の共有にもつながり、より個に応じた適切な声掛けや支援をしていくことができると考えている。さらに、児童が、一人でできるようになるために必要な指導と支援のめりはりを付けて授業内容や支援の工夫をしていくことで個に応じた適切な学びの実現ができるのではないかと考えている。

最後に、今回の単元で試行的に授業を通しての児童の姿を授業時間ごとに「学びの様子シート」へ記入を行った。毎回記入を行うことで、目標に関しての児童の様子を整理する機会となり、次時への授業改善へつなげることができた。さらに、放課後に学部全員で授業の振り返りを行い、授業動画と学びの様子シートを併用して見ることで児童の様子の変容や授業の中でポイントを絞りながら話し合いを進めることができた。しかし、毎回の記録は担当教員の負担となったため、特に記録に残す必要がある場合に限定して書き込んだり、端的にまとめたりなど記入の仕方を工夫することで負担軽減を図っていく必要があった。また、児童の学びの様子を記録しようと考えた際、設定した単元目標以外にも授業の中で記録に残すべき事柄があり、現在のシートの様式ではそういった情報を記録する場所はなく、記録する内容や記入欄の活用方法についても今後工夫していく必要性を感じた。

(2) 中学部

ア 授業づくりの経緯と「授業づくりシステム」の活用状況について

中学部では、作業学習木工班の「販売会に向けて③」の單元において授業実践を行った。本題材において、使う人のことを考えながら、よりよい製品作りに取り組むこと、販売会等で場に応じた適切な態度や行動をしたり、相手とやり取りしたりすることができることを目標として授業づくりを行った。



本研究の目的である、「個別最適な学び」を実現するために必要となる授業づくりに当たり、本実践に向け、中学部教員 8 名で授業の動画を見合う機会を 4 回設けて、対象生徒の学びの様子を記録していった。また、中学部内で指導案の検討日を 2 回設定し、対象生徒の実態や目標、手立てや場面設定等について検討した。

「授業づくりシステム」については、「学びの様子シート」の活用を行った。本格的な活用までには至らなかったが、題材の学習計画前半は学部独自の様式を作成して学びの様子を蓄積しておき、「授業づくりシステム」の運用が始まった後は「学びの様子シート」を使いながら入力を進めた。中学部教員全体で動画を見ながら学びの様子を記録し、様々な視点からの実態把握をすることができた。また、その後指導案検討で「個別最適な学び」を目指した手立てや場面設定を考える際に、これまでの授業での様子をより把握できる材料となった。しかしながら、「授業づくりシステム」における、関連教科に関わる情報や、関連する教科領域ごとに、個別の指導計画で設定したねらい、「個別の学習履歴」で設定した単元で扱う内容とその段階の連動などの「学びの様子活用シート」以外の部分は、活用するまでに至らず、代わりに指導案作成の際に関連する資料を確認しながら授業づくりを行った。

(図 26)

単元での個人目標1		単元での個人目標2	
手順通りに作業に取り組むことができる。		作業に関する報告や依頼などを自分から行うことができる。	
学習の蓄積	学びの様子	学習の蓄積	学びの様子
2021/12/10	ニスを塗る際、自分の担当する場所にはけでニスを塗ることができたが、くぼみにニスが溜まってしまっていた。	2021/12/13	報告を受けられる際、相手に対して礼をすることができたが、しぶんから「はい」と言う姿はみられなかった。
2021/12/16	手順通りに作業に取り組んでいた。時々、先輩に教えてもらいながら行う様子が見られた。	2021/12/15	同じ作業に取り組む友達と一緒に、オービット後に次の作業の依頼することができた。
2021/12/16	道具を置く場所を理解してやすり掛けすることができた。	2021/12/16	依頼されたものを受け取ることができていたが、報告する場面は見られなかった。
2021/12/16	友達と一緒にオービットでやすりがけをすることができたが、お客さんが来た場面で緊張し、動きが小さくなるがあった。	2021/12/17	教師に確認をお願いする際、相手のほうをみて「お願いします」と言うことができるが、確認してほしい際に相手と呼ぶまには至らなかった。
2021/12/17	マグネットを動かしながら、手順通り塗ることができるようになってきた。手順の中でとばしてしまったところもあったが、友達に指摘されるとやり直して取り組んでいた。		

図 26 学びの様子の記入状況（左：個人目標 1，右：個人目標 2）

イ 授業検討会で話し合われた内容から

「個に応じた目標設定及び手立ては適切であったか」をテーマとして話し合いを行った。対象生徒 B（2 年生）の学習の様子を振り返りながら、単元での個人目標の達成に向けて、教材教具や支援の仕方は適切だったか、ペアリングの工夫等が場面設定として有効だったかといった、実際の授業についての検討や、12 年間の学びのつながりなどに関することが話題として挙げられた。(図 27) その中で、特に話題が集中した 2 点について以下に述べる。

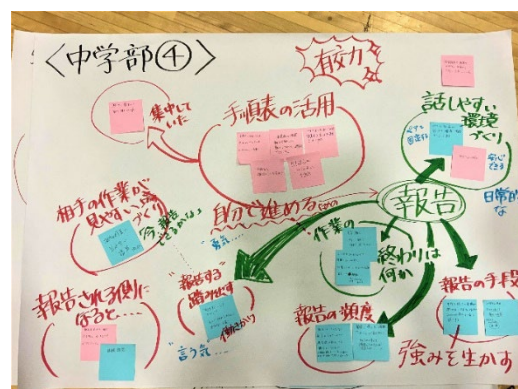


図 27 グループごとのまとめ（中学部）

【対象生徒Bへの支援内容や手立てについて】

本授業は、作業学習「キャンドルホルダーをつくろう」を、中学部木工班6名（1年生2名，2年生2名，3年生2名）を対象に行った。主な作業内容は、販売会に向けた作業製品の製作である。対象生徒Bは、組み立て後の製品にニス塗りをしたり、電動工具を使用して木材にやすり掛けをしたりする作業に取り組んだ。

対象生徒Bの、「初めての作業を行う際には、個別の支援や繰り返し取り組むことが必要」という実態から、ニス塗りの際に、小さいホワイトボードで作業手順表を提示した。手順表の上で自分でマグネットを動かしながら手順を確認できるようにした。この作業手順表について、事後検討会では、「見通しをもって取り組むことができていた」「マグネットを動かすのがよい」など、肯定的な考えが多数挙げられた。さらに、「この手立てを他の教科や、来年度の作業学習でも使えるとよい」など、教科を横断した考えも挙げられた。

「長時間の作業になると集中が持続せず、定期的に声掛けが必要」という実態から、対象生徒Bが小学部のときからかかわりがあり、対象生徒Bによく声掛けをしてきている生徒F（3年生）とのペア活動を設定し、意欲的に最後まで取り組むことを意図して活動を行った。（右写真）生徒Bは協力しながら最後まで作業をしていた反面、生徒Fに頼って作業がおろそかになる場面もあった。事後検討会でも「ペアリングで生徒の学びが達成できたのか」「一人の方がもっとできることもあったのではないか」と考えが挙がった。



このことから、後日、中学部教員でペアリングについて再度検討する機会を設けた。相手との関係や、ペアでの活動の内容、ペアで行う場面と一人で行う場面の使い分けを十分吟味すればペアリングは有効的に作用することや、将来生きていく中で、誰かに頼るという方法を知ることも必要だということを確認した。その生徒に合わせて有効なペアリングの相手や方法を学びの蓄積などで把握していくことが必要だという結論に達した。

【年間指導計画、個別の指導計画について】

今回の指導単元では職業の教科の内容を中心に扱い、関連する教科として国語や数学の実態を基に授業づくりを行った。対象生徒Aの個別の指導計画では「将来の生活や仕事につながる技能や言葉遣いなどを身に付ける」ことを職業のねらいとしており、教科の段階で見ると、中学部1段階の「作業課題が分かること」「使用する道具の扱いに慣れること」を目標とした。また、国語の教科の段階との関連から、「挨拶や受け答えの文言を決まった言い方を使うこと」を目標として単元の個人目標を設定した。こういった教科の視点で個人の単元目標を設定したことで、「目標が分かり易く、個別の指導計画から関連して下りてきているのがわかった」という声が事後検討会で授業者以外から挙げられた。

今回授業づくりのスタート段階から「授業づくりシステム」を活用することは難しかったが、教科の目標や対象生徒の個別の指導計画を指導案作成の際に意識することで、それらに関連付けて授業に反映させることができた。しかしながら、今回の実践を通してあらためて教科の段階を意識して授業づくりを行ったことで、これまで作業学習の中で、小中高での学びのつながりを十分に意識できていなかった部分もあることに気付いた。生徒の将来の自立と社会参加に向けて、12年間の学びの連続性

を意識し、学校全体としての教育課程のつながりを確認し、各学部で連携して授業づくりをしていきたい。

ウ 考察

本実践で中学部では授業づくりの過程で、学部内の教員間で動画を用いて授業内容や生徒の学びの様子を共有し、授業づくりのアイデアを出し合うための検討を行った。実際の映像を用いることで気付きを教員同士で共有しやすく、授業を共に指導していない教師からも多角的な視点で意見をもらうことができた。一方で、すべての授業でこういった映像を用いての検討を十分に行うことは難しいため、「授業づくりシート」の「学びの様子」の記録を通して継続的に情報共有を行ったり、映像記録へのアクセスを「授業づくりシステム」を介して容易にしたりするなど、今後の活用の工夫を通してこういった効果が実感として得られるか検討していきたい。

また、今回は「授業づくりシステム」の部分的な活用に留まったが、実際に入力を行い利用してみた印象の中で、今後、入力した情報が蓄積され膨大になることで情報量が多くなり、その整理、集約についての課題が出てくると考える。今回の授業づくりでは、教科ごとの実態を入力する際、作業学習での対象生徒の様子に着目して「個別の学習履歴」の記入を行った。一つの授業を通して生徒の目標や課題を大まかに把握できた中で入力を行ったため、教員間での情報の共有と整理が行いやすかった。今回入力を行った情報は、「作業学習を通して見える教科の学習の様子」であり、非常に断片的な情報ではあるが、だからこそ授業づくりのポイントを焦点化しやすかったと考えている。今後、様々な授業や単元をでの指導を通して、全教科の学習情報の蓄積が増えることで、かえって必要な情報が見えづらくならないよう工夫していく必要があると感じている。

(3) 高等部

ア 授業づくりの経緯と「授業づくりシステム」の活用状況について

高等部では、作業学習総合サービス業班の「名刺販売会をしよう」の単元で授業実践を行った。本実践に向け、高等部では高等部教員8名で授業参観を行う期間を設け、指導案検討日には対象生徒の実態や目標設定、手立て、場の設定等を、他の作業班の担当教員や、担任、進路指導主事、それぞれの立場や見方で話し合った。「授業づくりシステム」は、他学部同様、本格的な活用段階に至らなかったが、「学びの様子シート」の入力は授業者が行う



こととした。授業づくりの過程を通して、小学部・中学部・高等部の共通課題として以下の①～④が挙げられたが、高等部では特に④の教育課程上のねらいと各授業のつながりについて再度整理を行う必要があることが確認された。これらの課題については、高等部だけで解決できる内容ではないため、実践を通して明らかにし、本研究や教育課程委員会へつなぐこととした。

- ①「各教科等を合わせた指導」において、関連する各教科等の内容の整合性、及び実際の指導につなげる指導技術や指導方法を検討すること。
- ②実態把握（関連する各教科の学習状況や習得状況）をより詳細に行い、授業づくりを行うこと。
- ③個別の指導計画の目標、単元目標、生徒の本時の目標との関連やつながりをより意識すること。
- ④年間指導計画や単元計画を三観点で整理し、教育課程上のねらいを明確にすること。

イ 授業検討会で話し合われた内容から

「個に応じた目標設定及び手立ては適切であったか」をテーマとして話し合いを行った。対象生徒Aの個に応じた指導・評価に関するだけでなく、高等部作業学習の年間指導計画や作業班について、12年間の学びのつながりに関することが話題として挙げられた。これらの中から、特に話題になった2点について、以下に述べる。

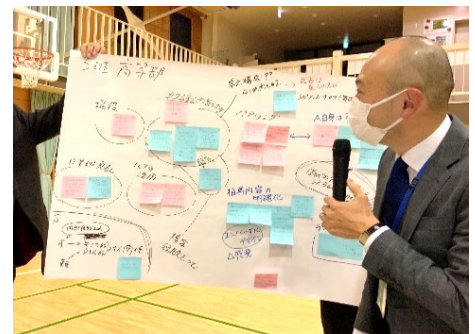


図 28 グループごとのまとめ（高等部）

【対象生徒Aの指導内容と手立てについて】

本授業は、作業学習「名刺販売会をしよう」を、総合サービス業班の生徒8名を対象に行った。主な学習内容は、販売会に向けた接客練習である。対象生徒A（2年男子）は、生徒B（1年男子）とペアを組み、受付を担当した。対象生徒Aの「人に自分の思いや考えを伝えるのが苦手」という実態や特性から、後輩で素直な性格の生徒Bとペアを組んで一緒に活動することで、「教える（対象生徒A）・教えてもらう（生徒B）」場面が設定でき、教えることで接客に必要なマナーやスキルを学んだり、改善を目指したりすることができると考えた。また、実際の名刺販売会を想定して、客の役割を教師や生徒が担って販売練習をした。また、活動の様子を動画で撮影し、それを授業の中で全員で見ながら振り返り、気づきや改善案を考えることをねらいとして授業づくりを行い、実践した。

事後検討会では、対象生徒Aの特性から、話し掛けやすい後輩（生徒B）とのペアを組んだことが効果的であったという意見が多数挙げられた。場や状況に応じた対応が難しい生徒Bに対して、対象生徒Aは「この場合はこうしたらいいよ」と、見本を示したり手を添えたりして、気付いたことを繰り返し教え、生徒Bの「接客スキル」の改善につながる様子が見られた。しかし、対象生徒A自身に

「接客スキル」の知識や技能を学ぶ場が必要であること、また、ペアを組むことは手立ての一つであり、学習目標を達成させるためには、指導内容をより具体的にし、段階的に指導を行っていくことが重要であることが話し合われた。



このことを受け、検討会后、高等部教員で「教える・教えられる」関係性や手立てについて話し合う機会を設けた。生徒間でもかかわり合う関係性をつくる手立ては、前研究の成果として有効な面があり、他者との対話を通して学びを深める学びは、「主体的・対話的で深い学び」による授業改善に通じるものとも言える。しかし、本授業のねらいは「接客マナーやスキルを学ぶ・改善する」ことであった。このことから、知的障害のある生徒の学び方の特性に沿うことや、知識・技能を習得する場面、そしてそれを使う場面を、丁寧に段階を踏んで行くことが大切であることを確認することができた。また、知的障害のある生徒の卒業後の就労や生活を見据えると、「教える・教えられる」関係性は、生徒の認知面や年齢で上下関係が生まれてしまう可能性があることも課題として見えてきた。

【高等部作業学習の年間指導計画、作業班について】

授業検討会では、高等部の作業学習の様子を初めて参観した小・中学部の教師から、「高等部の作業学習の様子を知る機会になった」という意見が多数聞かれた。「小・中学部段階から、高等部や卒業後を見据えて目の前の児童・生徒の指導を行っていきたい」との感想を得ることができた。

一方で、総合サービス業班の作業内容や、作業班編成、年間指導計画、学習環境に関する疑問や指摘、改善案を得ることができた。これらを受けて、高等部で継続検討を行った。

現在、本校高等部の作業班は、生徒の進路希望に応える指導をより充実させていくために、作業班編成や学習内容の見直しを進めているところである。検討会で得た指摘や改善案を今後生かしていく計画である。

ウ 考察

本授業は、これまでの活動主体の授業づくりから、現行学習指導要領に基づき、育成を目指す資質・能力ベースで授業づくりを目指したが、多くの課題が見える実践になった。本研究では、今年度「各教科等を合わせた指導」で、「個別最適な学び」を目指すため、関連する各教科等を明らかにし、個別の指導計画や「個別の学習履歴」等とのつながりを「授業づくりシステム」によって見える化し、授業づくりに活用することがねらいであった。しかし、「授業づくりシステム」が指導案作成に間に合わなかったため、十分に活用することができず、その点については今後継続的に検証を行う必要がある。また、本校は、現在「各教科等を合わせた指導」中心の教育課程で編成しており、知的障害である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科は、時間の指導を設定していないものが多い。そのため、国語や数学などの教科の指導は、「見えにくい」状況にある。今年度、「各教科等を合わせた指導」において個々の生徒の教科の段階やねらいをあらためて意識して実践したことにより、関連する教科が「見えて」きている。今後の実践を通して、さらに授業づくりに必要となる視点や教育課程上の課題の整理を行い、「個別最適な学び」の実現に迫っていききたい。

Ⅷ 1年次の実践のまとめと2年次への展望

1年次の実践では「各教科等を合わせた指導」において、個々の児童生徒の「教育的ニーズ」を踏まえた授業づくりを行うことを目指し、「授業づくりシステム」の作成を行い、部分的にはあるがシステムを活用して授業づくりを行った。ワークショップや各学部の授業実践の振り返りをもとに、1年次の成果と課題をまとめ、次年度の展望について述べる。

1) 成果と課題 (○成果, ●課題)

(1) 「授業づくりシステム」との関連から

○「教育的ニーズ」の把握による、授業改善並びに教育課程改善への寄与

今回、児童生徒の「教育的ニーズ」の把握を行うためのツールとして「授業づくりシステム」の作成を行った。研究授業の授業づくり開始時点では作成が間に合わず、授業づくりに有効に作用するかという点については検証段階に至らなかった。しかし「授業づくりシステム」の作成過程で、個々の児童生徒の「教育的ニーズ」を把握するためにはどのような情報が必要かについてワークショップ等を通して考えることができた。各学部の授業実践後の振り返りを見ても、各児童生徒の学びを深めるために今後改善を図る必要がある点について、多くの具体的な意見が出されている。このことはその因果関係については今後の検証対象の一つであるが、個々の児童生徒に育みたい資質・能力と各教科の学習状況を関連付けて考える働き掛けそのものが、授業改善ならびに教育課程の改善に寄与する可能性があることが実感として得られた。

○授業検討の視点の充実と広がり

今年度の実践を通して、全学部で「学びの様子シート」に授業ごとの児童生徒の学びの様子を記録し、教員間で共有を図った。授業者にとっては、授業ごとの児童生徒の学びの様子や変容を整理するうえで有効であることが分かった。その一方で、入力する内容を精選したり、入力に掛かる負担を軽減したりすることが今後の継続的な利用を目指すうえで検討が必要であることが分かった。さらに、授業検討会では、研究協力者の先生から「学びの様子の記事内容を見ることで、単位時間の授業だけでは知ることができない、学びの積み重ねや児童生徒の変容を知ることができ、参観した授業のねらいや指導の手立てを連続的な視点で把握することができた」という感想をいただいた。この点に関しては、授業を検討する際に単位時間の授業だけではなく、単元全体や、さらには他の教科との関連の中で検討を深めていける可能性が示唆されたと捉えている。

●データの入力内容の整理と視点の共有

今回は、「こんな情報があったら授業づくりに有効ではないか」という要素を「授業づくりシステム」に入れ込み、実際の業務の中でどのように利用がなされていくかも含め試行を行った。構想当初から業務負担の過度な増大につながらないように、これまでの業務とのバランスを考えながら作成を目指した。授業づくりとデータ入力の両方を行ってみた結果、データ入力を行う時間の確保と入力の際の視点を十分に共有する必要性が課題として挙げられた。

●データの入力方法の周知と、校内でのICT活用能力の向上をねらいとした研修の実施

上記の入力内容の視点に加え、入力に伴う基本的なICT機器の操作スキルについても、校内での定期的な研修を行う必要性を感じた。「授業づくりシステム」に限らず、様々な業務が校内でデジタル化されつつあるが、新たな仕組みが浸透するまでに、一定の混乱が生じることが見えてきている。し

かし、ここ数年で Zoom や Google Meet といった遠隔会議システムを活用した情報交換が当たり前になり、実施当初は多くの混乱が生じたが、今では必要不可欠のツールとなり、ICTの導入により多くの恩恵を得ることができている。ICTの効果的な活用場面を見定め、業務に活かすためのノウハウも今後検討していきたい。

●デジタルとアナログの効果的な使い分け

今回、「学習履歴シート」の入力に関しては紙媒体の資料は作成せず、「授業づくりシステム」にアクセスし、そこから直接入力を行う、デジタルのみでの活用を目指した。生徒の学習に関わる情報を可能な限り最新の内容にアップデートし、教員間で絶えず情報交換を行うことを意図してこのような形で計画を進めたが、この点に関しては現状の業務遂行の流れと異なる点もあり、対応が困難な場面が見られた。メモを取りたいと感じたときに容易に記録できる媒体として、アナログ資料の有用性についても見直すきっかけとなった。今後、生徒の学びの様子をメモするための紙資料を作成し、そのメモを基に定期的に「授業づくりシステム」に入力を行うという流れも作っていきたいと考えている。

●シンプルな構造でのシステム設計

上記の視点とも重なるが、新たな仕組みを業務内で活用する際、可能な限り「誰もが利用でき」「安心して使える」シンプルな設計を目指す必要がある。文部科学省では要録をはじめとした校務に関する文書等の電子化と標準化を進めており、学校間での差異を少なくすることで、業務負担の軽減を図ることが期待されると述べている[※]。現在校内独自のシステムとして作成を進めているが、継続的に運用できるようシステムの修繕に伴うスキル等も考慮し、今後よりシンプルな設計へと改善を図っていきたいと考えている。

(2) 授業実践との関連から

○授業検討の視点の広がりについて

各学部の授業実践を通して出された反省を基に考えると、「個別最適な学び」を実現させるためには、より教科ごとの知識や技能の定着具合を詳細に把握したうえで授業づくりを行うことの有効性が期待される。例えば、小学部の反省で挙げた言葉の理解について、ふだんの指導で何気なく使っている言葉の意味や概念を児童が十分に理解できているかという点は確実に押さえるべき視点である。指導の際に用いる言葉については、学部ごとの発達段階を考慮し、指導を行なっているが、そのうえでこういった課題が挙がるということは、さらに目の細かな意識をもって指導に当たる必要があることを示唆していると言える。また、授業検討を通して挙げられた意見の多くは、個々の児童生徒にとって「何が分かり、何が分からないのか」を分析し、より個に応じた視点をもって指導を改善していこうという新たな可能性が感じられるものだった。そういった意味で、個々の児童生徒の教科の理解状況も踏まえて検討を行うことで、「個別最適な学び」の実現に向けた授業改善への手ごたえを感じることができた。

●個々の児童生徒の学習目標と実際の学びのずれについて

高等部の実践では、これまでの研究成果である、ペアリングの工夫等により、「教え合う」という主体的・対話的活動を行い、対象生徒の活動の充実を図ることを目指した。その結果、集団（作業班全体）としての学びの深まりを実感することはできたが、対象生徒個人の学びに視点を移すと、課題が残る実践となったことがうかがえる。例えば、高等部の対象生徒Aの本時のねらいについて考えると、「接客練習に取り組むことによって、自分自身が課題を感じ、改善した点や成長した部分について考え、伝えることができたか」という、“自身の成長に目を向け、表現すること”が主なねらいであった。

しかし、学習活動の手立てとして設定した「教え合い」によって、活動としての充実は図れたものの、生徒自身の意識が“教えること”に集中し、「班員にしっかりと教えることができたか」という点が生徒Aにとっての主な学びになっていたとも言える。こういった、個々の児童生徒の学習目標と実際の学びにずれが生じている可能性については、「集団としての学習活動の充実」から個々の学習目標を教科の視点で整理し、「個々の児童生徒の学びの充実」により焦点化したことで見えてきた課題と捉えている。その時々によって、児童生徒の学びの様子は刻々と変化し、指導にあたる教師はその都度、個々の児童生徒の学びを把握し、個々の目標達成のために“学びを調整”していくことが求められる。

「個別最適な学び」の実現に向けた実践上の課題を考える際、この“学びの調整”は「指導の個別化」と「学習の個性化」がいずれも「教師による指導を工夫していくことが重要」とされていることから、重要な視点であると考えている。今後の取組を通して、教師の“学びを調整する力”をどのように高めていくか、この点についてもさらに検討し、授業づくりに生かしていきたい。

（3）教育課程との関連から

○●教育課程の整理と見直しについて

各授業実践を通して、教科の視点を加味して授業づくりや授業検討を行うことで、個々の児童生徒の学びの充実につながる示唆を得ることができた。その結果、あらためて教科の資質・能力を踏まえて本校の教育課程の見直しを図る必要があるのではないかといった意見が多く得られた。これまで「各教科等を合わせた指導」で実践してきた教科の中にも、時間ごとの指導として設定した方が、より学びが深まるのではないかといった実感を得ることができたからこそその意見だと捉えている。これらの意見は教育課程や指導の意義をあらためて見直す必要があるという点から見ると、本校の大きな課題と捉えることもできるが、今年度の実践を通して改善を図ろうという意識が芽生え、高まってきたという点では大きな成果とも言えるだろう。

2) 2年次への展望

上記の成果と課題を受け、既に新たな取組の方向性として年度内の実施を予定しているものも含め、今後の展望を次のように考える。

（1）学習履歴の蓄積と継続

個々の児童生徒の学びの蓄積、特に教科の学習状況について、これまで以上に把握に努め授業づくりに生かすことで、「個別最適な学び」の実現に向けて効果が期待できるのではないかとこの実感が今年度の実践をとおして得られた。年度ごとの学びをしっかりと次年度に引継ぎ、円滑に学習の接続を行うためにも、学習履歴の蓄積が必要となる。今年度はこれまでの行ってきた紙資料での引継ぎに加え、「個別の学習履歴」に教科の学習状況の記録を行い、担任間で確認を行いながら、次年度への引継ぎ資料として活用する予定である。今後は教科ごとの内容を評価する基準を定める等、評価の視点についても十分に検討する必要がある。取組を進めながら評価の充実を図り、「個別の学習履歴」の十分な活用を目指していきたいと考えている。

（2）「授業づくりシステム」の発展

今年度の取組みでは、個別の指導計画や単元指導計画などの児童生徒の学習に関わる資料を関連付け、個々の児童生徒の「教育的ニーズ」を詳細に把握し、授業づくりを行うためのツールとして、「授業づくりシステム」の作成を行った。ここで言う「システム」とは各種データを「連動させる仕組み」を表し、いわゆる「データベース」としての意味合いで使用してきた。しかし、今年度の授業づくり

を通して、「個別最適な学び」の実現を目指すうえで、「教育的ニーズ」を把握したうえで、「いかにして授業実践に反映させるか」という課題に直面した。具体的には「個々の児童生徒の単元目標の設定に至るプロセスを明確にすること」や「教科のねらいを評価する際の基準を明確にすること」など、まだまだ曖昧な点が残っている。つまり、授業づくりに至るプロセスをPDCAサイクルで考えるならば、「教育的ニーズ」の把握をより重視した今年度の取組はPlanにあたる部分を、「個別の学習履歴」を基にしたアセスメント（A）と、「単元での個人目標」の設定（P）に分化し、PDCAサイクルにA（アセスメント）を加えたAPDCAサイクルとして捉え直し、その冒頭部分に取り組んだに過ぎない。今後の目標としては、「授業づくりに至るAPDCAサイクルの確立」を目指し、授業づくりと評価までを一体とした、“広義での授業づくりの仕組み”として「授業づくりシステム」を定義し直していきたいと考えている。

（3）互いに学び合う研修機会の確保

授業検討を行う中で、あらためて校内での研修の機会を充実させることの大切さについて教員間で認識を共有することができた。先に述べた“学びをコーディネートする力”を一人一人の教師が高めるためには、計画的な研修機会の設定と互いに学び合う風土のさらなる形成が必要だと考えている。そのような意味で今年度の研究実践での取組は、研究協力者との意見交換の場を積極的に設定したり、学部横断型のワークショップを行ったりと、互いに学び合う風土の形成に一定の成果を得ることができたと考えている。次年度もこのような取組を推進し、研究実践の深まりとともに、教師が互いに学び合う学校としての風土を継承し、発展させていきたいと考えている。

（4）カリキュラム・マネジメントの推進による教育課程の見直し

カリキュラム・マネジメントについては、多くの学校で研究に取り組み、成果報告がなされている。それらの実践事例を基に組織の再編や新たな仕組みづくりを検討し、学校全体でカリキュラム・マネジメントを一層推進していく予定である。3月に予定している研修会では、今後の本校の目指す方向性についてあらためて共通認識を図る場を設け、全職員が共通歩調で参画できる体制を整える予定である。研究協力者の先生方も含めて、本校の未来について広く考え、今後の特別支援教育の未来や児童生徒の将来の生活を考えながら、目指す方向を設定したいと考えている。

<文献>

- ⁱ 文部科学省 (2018): 「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)」
- ⁱⁱ 田淵健, 佐々木全, 東信之, 名古屋恒彦, 最上一郎 (2020) 知的障害特別支援学校における「育成を目指す資質・能力」と「各教科等を合わせた指導」の関連
岩手大学大学院教育学研究科研究年報 第4巻 (2020.3) 213-222
- ⁱⁱⁱ 文部科学省 (平成28年4月13日特別支援教育部会第7回配布資料) 特別支援教育部会 (第6回) における主な意見 (未定稿)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/063/siryu/attach/1370127.htm
- ^{iv} 我が国の特別な支援を必要とする子どもの教育的ニーズについての考察 -英国の教育制度における「特別な教育的ニーズ」の視点から-
国立特別支援教育総合研究所研究紀要 第35巻 (2008)
http://www.nise.go.jp/kenshuka/josa/kankobutsu/pub_a/a-35/a-35_8.pdf
- ^v 我が国の特別な支援を必要とする子どもの教育的ニーズについての考察 -英国の教育制度における「特別な教育的ニーズ」の視点から-
国立特別支援教育総合研究所研究紀要 第35巻 (2008)
http://www.nise.go.jp/kenshuka/josa/kankobutsu/pub_a/a-35/a-35_8.pdf
- ^{vi} 「Google Workspace」はGoogle社の商標登録です。同様に「Google Workspace for Education Fundamentals」はGoogle社の商標登録です。
- ^{vii} 「Word」, 「Excel」はMicrosoft社の商標登録です。
- ^{viii} 熊本大学教育学部附属特別支援学校ホームページ内 平成30年度研究成果「指導内容確認表」より
- ^{ix} 熊本大学教育学部附属特別支援学校 令和元年度研究紀要 (第33集)
新学習指導要領を見据えたカリキュラム・マネジメント ~熊大式マネジメントシステムの構築~
<https://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/~futoku/pdf/kenkyukiyou2019.pdf#zoom=100>
- ^x 文部科学省 (平成28年7月28日): 2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会最終まとめ

各学部の実践授業の指導案と
「授業づくりシート」
(小学部)

小学部 生活単元学習 学習指導案

日 時 令和3年12月21日(火)
9:40~10:20
場 所 ふたば教室・多目的教室
指導者 T1: 平間 詞子
T2: 及川 慧
T3: 平塚 修也

1 単元名「お手伝いをしよう」

2 単元について

(1) 児童観

本学級は、1年生3名(男子1名,女子2名),2年生3名(男子2名,女子1名)の計6名で構成されている。6名による集団での学習にも慣れ、学校生活のリズムも定着してきた。

コミュニケーションについては、表出言語があり、教師の働き掛けに応じて単語や二語文、三語文が言える児童、簡単な会話ができる児童など実態は様々である。指示理解については、教師の簡単な音声言語により行動できる児童がいる一方で、理解するまでに時間を要したり、行動に移すために教師の支援を必要としたりする児童もいる。

以上のように、本学級は障害による困難さや発達年齢、学び方の特性など個人差が大きい。本単元は学習グループ全体の実態に応じて計画するが、本研究テーマ「個別最適な学びの実現」に向け、達成状況を児童が学ぶ姿から検証していく。本来であれば学習グループ全員を検証したいところであるが、実態の異なる児童を選定することで焦点化して検証することや、今後の指標にすることができると考える。そのため、本授業では対象児童2名(A, B)を抽出する。

対象児童Aは、自閉症を有する1年生であり、日々の学校生活で着替えや片付けなどを手順どおりに行えるように練習をしている。発語があり、平仮名や片仮名を読むことや自分の気持ちや質問など相手に伝えることはできるが、内容が一方的なため、会話が成り立たず、独り言を常に口に行っていることから個別に声掛けを行うことで話し相手や活動内容に意識を向けることができる。自分が関心をもっていることには積極的に取り組んだり興味を示したりするが、制作活動や掃除などの学習への関心は薄く、意欲をもって学習に取り組むことが難しいため、様々な活動を体験することで興味・関心の幅を広げられるように活動内容を工夫している。また、視線が定まらず、示範や友達の活動を見ることが難しい場面があるため、教師が隣で声掛けを行っている。物をつまんだり、握ったりする際に指に力を入れる意識が弱く、低緊張である。そのため、制作活動や物を持ち上げたり、握ったりする際には、教師が手を添える支援が必要である。

対象児童Bは、自閉症を有する2年生であり、発語はあるものの単語や二語文が多く会話することが難しい。頭に浮かんだ言葉を授業中にも大きな声で何度も繰り返し発言したり、奇声を上げたりするため、気持ちの安定を図る声掛けをすることで落ち着いて学習に参加することができる。また、気になるものが目に入ると突発的に向かっていくなどの飛び出しや離席、自分の思うようにいかないときや活動の見通しがもてないとき、手持ち無沙汰なときなどに近くにいる人を蹴ったり、つねったりなどの他害がある。そのため、常に教員が近くにおいて気持ちの安定を図ったり、次の活動を伝えたり、他の児童への他害が無いように支援している。示範や友達の活動へ視線を向けることが難しいため、活動に取り組めるように、教師が手を添えて支援をする必要がある。

本学級の児童は、毎日のように家庭でお手伝いをしてきており、朝、登校するなり「お手伝いしたよ」と教師に話すなど、家庭でのお手伝いや学校でのお手伝いの学習に意欲的に取り組んでいる。自分の身の回りのことを行うことに課題がある一方で、教師のお手伝いをすることに喜びを感じ始めている児童も出てきており、学部全体にかかわる当番やお手伝いなどの仕事にも、教師と一緒に意欲的に取り組む様子が見られるようになってきた。教師のお手伝いをすることを目標に他の活動に励む姿が多く見られるようになり、お手伝いに対する意欲が高まっている。しかし、家庭では、家族が食事作りや掃除、洗濯など家庭での仕事をする様子を目にしているにもかかわらず、実際にやってみるという経験は少ない児童がほとんどである。日常生活の指導として、掃除の学習をしても家庭では行っていない児童が多いなど学校での学習が家庭でのお手伝いに結びついていない現状がある。

(2) 単元観

小学部では、本単元において、児童が将来自立して生活していくために必要な知識や技能を身に付け、家庭生活や学校生活のいろいろな場面でそれらを生かしていけるようにすることをねらいとしている。少しずつ自分のことだけでなく周囲の存在を意識し始めるこの時期に、身近な人たちがそれぞれの役割を分担して行っていることに気付き、自分たちの生活を豊かなものとして成立させていることに目を向けられるようにしていきたい。その中で、一定の役割を担っていこうとする意識や基礎的な技能を培っていきたいと考える。長期休業中の家庭でのお手伝い等につなげるなど、家庭と連携しながら取り組むことで、家事スキルの定着や更なる向上ができるよう学習を進めていく。

低学年であるふたば学級では、生活に必要な役割にはどのようなものがあるのかを知り、実際に体験することで興味や関心をもつことを大きなねらいとして学習内容を設定している。低学年の段階で、様々な家庭生活にかかわる役割や活動を経験し、関心をもつことで、周りを見る目が更に広がることを期待している。本単元は、1年を通して継続的にお手伝いへの意欲をもてるように、6月、7月、12月の3期に分けて設定している。6月は、布巾畳みや机拭きなどふだんの学校生活で行っている活動の中から、家庭でのお手伝いとしてできる内容を取り上げ、学習を行った。7月には、長期休業期間中の家庭生活を見据え、食器運びや配膳などの内容を取り上げ、学習を進めた。これらの活動を踏まえ、12月には一般家庭の部屋を再現した場所で活動することで学習したことを家庭内でも生かせるようにし、家庭生活や学校生活を中心とした社会生活を担っていく一員としての役割を果たしていくことの第一歩へとつなげていきたい。そして、中学年、高学年と経験を積み重ねていくことで、基礎的な技能を身に付け、進んで自分の役割を果たそうとする児童を育てていきたいと考える。

(3) 指導観

指導に当たっては、以下の点に留意して支援を行う。

① 意欲を引き出し、主体的に取り組むための支援について（主体的な学びについて）

ア 本単元ではどのような学習に取り組むのか、児童が見通しをもって活動に取り組めるようにしたい。そのためには、なぜこの学習が必要なのか、どのような内容を学習していくのか、低学年の児童なりに理解できるように、学習の動機付けを工夫していきたいと考える。

本単元は6月と7月にも実施しており、これまでの学習の中でも、学習の動機付けとして連絡帳を活用してきた。連絡帳に、その日に学習したお手伝いの内容を教師が記入し、保護者は児童が家で行ったお手伝いについて連絡帳に記入する。次の日の学習では、導入時に教師が連絡帳の保護者欄から、家で手伝いをしたことを紹介することによって、児童は連絡帳を紹介してもらおうと積極的に家でのお手伝いに取り組み、学習への意欲も高まっていた。今回の学習でも、教師が連絡帳に記入してある家でのお手伝いの様子や「お手伝いをしてくれて助かった」「手伝ってくれるとうれしい」などの保護者の気持ちを児童に伝えることで、学習に意欲をもち、家でのお手伝いに主体的に取り組もうとする意欲を高めて学習への動機付けを継続して行っていきたい。

イ 本単元は、学習した内容を家庭生活へとつなげていくことをねらいとして活動を行っていく。そのために、これまで学習した洗濯、配膳、掃除などの内容を家庭生活の中で行うという実感をもって取り組めるよう実際の家庭の部屋を模した場面を設定する。今回は洗濯と掃除を取り上げる。掃除の活動では、じゅうたんとフローリングといった素材の違う床を用意し、それに適した掃除用具の選択やその使い方について学べるようにすることで、家庭でもやってみようという意欲の高まりにつなげていきたい。

② 人とかかわりながら学びを広げ深める活動について（対話的な学びについて）

実際の場面では、教師が実際に活動の手本を示し、児童同士が互いの様子を見合う場面を設定することで、活動のイメージをもって取り組めるようにする。

③ 本単元の学習内容に含まれる教科等との関連について

本単元の学習内容に含まれる各教科等は、国語、算数、生活、特別な教科道徳である。

国語	A：聞くこと・話すこと
算数	A：数量の基礎，C：図形，D：測量
生活	カ：役割，キ：手伝い・仕事，ケ：きまり
特別な教科道徳	C：勤労，公共の精神，C：家族愛，家庭生活の充実

(4) 研究主題との関連

本研究の目的は、児童生徒一人一人の教育的ニーズや学習状況に応じた授業作りを行うことで個別最適な学びの実現に資するものである。この目的のために、個別の指導計画や年間活動計画（単元計画）、育成を目指す資質・能力、各教科等の目標や内容、及び学習状況や障害特性を踏まえた指導を見える化する仕組みとして「授業作りシステム」を構築する。この「授業作りシステム」を基に授業作りを行い、授業検討会で本実践の評価を行う。この「授業づくりシステム」の活用を通じた教師の意識の変化や児童生徒の変容、単元の変容により、本研究の有効性を検証する。

3 単元の目標

観 点	目 標
知識及び技能	身の回りの中で自分ができる手伝いについて知り、必要な技能を身に付けることができる。
思考力・判断力・表現力等	自分の役割が分かり、手順どおり活動することができる。
学びに向かう力、人間性等	家庭で取り組みたい手伝い、頑張りたい手伝いなどを進んで選ぶとする。

4 学習計画（8時間扱い 本時7／8時間）

小単元名	時数	学習内容	関連する 主な教科
12/13(月) 12/14(火) 第1次 洗濯をしよう	2	12/13(月)12/14(火)(2時間) ・洗濯機を使ってTシャツを洗い、ハンガーに干す。 ・乾いたTシャツをハンガーから取り外し、たたむ。	国語 算数 生活 道徳
12/15(水)～12/20(月) 第2次 掃除をしよう	1	12/15(水) ・テーブルに付いた汚れをきれいに拭き取る。	
	1	12/16(木) ・粘着カーペットクリーナーの使い方を知り、じゅうたんに付いた糸くずを掃除する。	
	1	12/17(金) ・フロアワイパーを使ってフローリングの掃除をする。 ・汚れがなくなるまで拭き取る。	
	1	12/20(月) ・掃除機を使い、じゅうたんやフローリングに掃除機を掛ける。	
12/21(火)～ 12/23(木) 第3次 ぴかりんたいさくせん	1 本時	12/21(火) ・テーブルの汚れが無くなるまで拭き取る。 ・粘着カーペットクリーナーで、じゅうたんに付いた糸くずを取る。	
7掃除をしよう ぴかりんたいさくせん	1	12/23(木) ・フロアワイパーを使ってフローリングを掃除する。 ・掃除機を掛ける。	

5 本時の計画

(1) 小単元（題材）名 「掃除をしよう（ぴかりんたいさくせん）」

(2) 本時の目標

観 点	目 標
知識及び技能	汚れに気付き、適切な用具で掃除をすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	汚れを見付け、意欲的に掃除に取り組もうとしている。

(3) 児童（生徒）の様子、目標、手立て・評価

	本時に関わる児童の様子	個別の指導計画		評価の観点
		本時の目標	手立て	
A	<p>障害種別：自閉症</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の指示を聞いたり、示範を注視したりすることが難しい。 ・興味・関心をもっていることが限定的で、他のことに意識を向けることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①汚れを見て、掃除することができる。（生活科キ手伝い・仕事1段階） ②個別の声掛けにより、周りと同じ活動ができる。（生活科カ役割1段階） 	<ul style="list-style-type: none"> ①汚れを分かりやすく提示する。 ②イラストや示範など、活動内容の提示の仕方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①汚れを見ながら掃除をし、汚れを取ることができたか。[知識及び技能] ②示範や友達の様子を見ながら掃除をしようとしていたか。[学びに向かう力、人間性等]
B	<p>障害種別：自閉症</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用具を正しく扱うことが難しい。 ・個別の支援や声掛けを行うことで、活動に取り組むことができる。自分の思いと違うことがあると不安定になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①教師と一緒に正しく用具を使うことができる。（生活科キ手伝い・仕事1段階） ②見通しをもち、落ち着いて活動に参加することができる。（生活科カ役割1段階） 	<ul style="list-style-type: none"> ①正しい用具の使い方を示範し、教師が手を添えながら一緒に活動する。 ②活動に集中できるように学習環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ①用具を正しく使って掃除をすることができたか。[知識及び技能] ②落ち着いて活動に参加できたか。[学びに向かう力、人間性等]
C	<p>障害種別：自閉症</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧さよりも、友達と競い合おうという気持ちが強くなるときがある。 ・やることが分からないと、不安を強く感じて同じ質問を何度も繰り返したり、活動に消極的になったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①正しい用具を選択し、競うことなく、きれいにすることを意識して掃除することができる。（生活科キ手伝い・仕事2段階） ②手順どおりに進んで掃除に取り組むことができたか。（生活科カ役割2段階） 	<ul style="list-style-type: none"> ①きれいにすることを意識して取り組めるような声掛けを工夫する。 ②示範や指示を分かりやすく提示し、見通しをもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①汚れを最後まで丁寧に切り切ることができたか。[知識及び技能] ②進んで掃除に取り組むことができたか。[学びに向かう力、人間性等]
D	<p>障害種別：ダウン症</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順どおりに正しく活動することができるときと、自分のやり方にこだわり、作業や切り替えに時間が掛かるときがある。 ・意欲的に学習に取り組むことが多いが、気持ちが変わりやすく作業に気が向かなくなることがある 	<ul style="list-style-type: none"> ①教師の説明や示範を見ながら、やり方を知り、示された手順どおりに活動することができる。（生活科キ手伝い・仕事1段階） ②意欲を継続させながら最後まで活動に参加することができる。（生活科カ役割2段階） 	<ul style="list-style-type: none"> ①教師の示範や友達の活動を見る機会を設定し、手順が分かりやすいように工夫する。 ②活動ごとに称賛する場を設定し、意欲を継続できるような声掛けを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①手順どおりに掃除をすることができたか。[知識及び技能] ②学習の途中で気分を変えことなく最後まで学習に参加することができたか。[学びに向かう力、人間性等]
E	<p>障害種別：ダウン症</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用具を正しく使うことができるときと、自分のやり方にこだわるときがある。 ・全体への説明や、教師の示範を見て活動内容を把握し、取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①用具を適切に使って最後まで掃除することができる。（生活科キ手伝い・仕事2段階） ②手順ややり方を理解して、汚れを見付けて自分から掃除に取り組むことができる。（生活科カ役割2段階） 	<ul style="list-style-type: none"> ①教師の示範で正しい用具の使い方をよく見せ、まねできるようにする。 ②分かりやすい指示や示範をし、やりたいという気持ちを引き出すようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①用具を正しく使って汚れを取ることができたか。[知識及び技能] ②示範をよく見て理解し、掃除をすることができたか。[学びに向かう力、人間性等]
F	<p>障害種別：知的障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順を理解し、取り組むが、手先が不器用なため、丁寧さに欠けるときがある。 ・意欲的に取り組めるが教師の指示なしに自分の思い通りに進めようとしてしまうときがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①汚れをよく見て用具を選び、最後まで取り切ることができる。（生活科キ手伝い・仕事2段階） ②教師の指示に合わせて取り組むことができる。（生活科カ役割2段階） 	<ul style="list-style-type: none"> ①教師が示範や手添えを行い、正しく掃除用具を使えるように支援する。 ②待つときの姿勢や待ち方を伝えるなど、何をやる時間なのかを明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①汚れを取ることに集中し最後まで掃除をすることができたか。[知識及び技能] ②指示を聞いて、そのとおりに活動することができたか。[学びに向かう力、人間性等]

(4) 学習過程 (別紙1)

(5) 本時の評価

① 児童の評価

観 点	目 標
知識及び技能	・ テーブルの汚れに気付き、きれいにすることができたか。 ・ 粘着カーペットクリーナーを正しく使うことができたか。
学びに向かう力、人間性等	・ 汚れを見付け、きれいにしようと意欲的に取り組むことができたか。

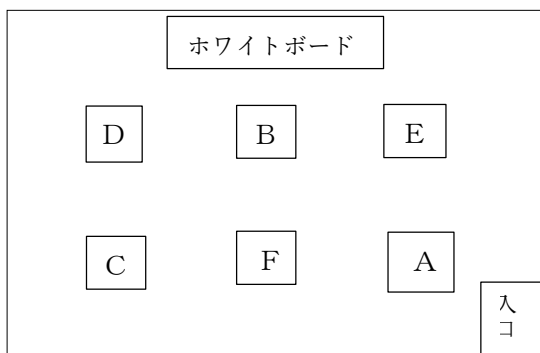
② 教師の評価

- ・ 目標設定、学習内容、指導方法、教材・教具は適切であったか。
- ・ 個に応じた指導を適切に行うことができたか。

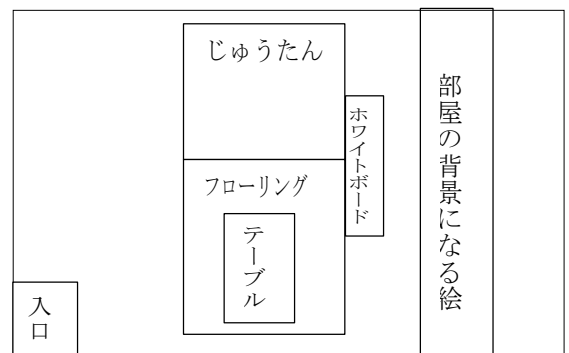
(6) 場の設定

○ 場の設定

場面1 (ふたば教室)



場面2 (多目的室1)



○ 準備物

- ・ テーブル
- ・ 布巾
- ・ 粘着カーペットクリーナー
- ・ 掃除機
- ・ フロアワイパー

(7) 板書計画

おてつだいをしよう
掃除場所と掃除用具のイラスト や写真

(4) 学習過程 (別紙 1)

区分 配時	○児童生徒の学習活動 ●：教師の支援					
	児童A	児童B	児童C	児童D	児童E	児童F
<p>全体の学習活動 (T1)</p> <p>1 始めの挨拶</p> <p>2 前時までの学習を振り返る</p> <p>3 本時の学習内容を確認する</p>	<p>○児童生徒の学習活動 ●：教師の支援</p> <p>●姿勢を正して挨拶をするように促す。</p> <p>○写真カードを見ながら、前時までの学習内容（テーブル拭き，フロアワイパー，フロアワイパー，掃除機）を想起する。</p> <p>●学習意欲を高めるために，連絡帳を紹介し，家庭でのお手伝いの様子を伝え，お手伝いをした児童を称賛する。</p> <p>●写真や文字，実物を示しながら本時の学習内容を説明する。</p>					
<p>展開</p> <p>9：45 (30分)</p> <p>4 移動する</p> <p>5 汚れを見付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーブル ・じゅうたん <p>6 掃除用具を選ぶ</p> <p>7 テーブルを拭く</p>	<p>●意識を向けて話を聞けるように個別の声掛けを行う。</p>	<p>●個別の声掛けにより，本時の活動に見通しをもつことができるようにする。</p>	<p>●意識を向けて話を聞けるように必要に応じて声掛けを行う。</p>	<p>●意識を向けて話を聞けるように必要に応じて声掛けを行う。</p>	<p>●意識を向けて話を聞けるように必要に応じて声掛けを行う。</p>	<p>●意識を向けて話を聞けるように必要に応じて声掛けを行う。</p>
<p>9：45 (30分)</p> <p>8 粘着カーペットクリナーで掃除する</p>	<p>●汚れを見ながら掃除をし，汚れを取ることができたか。〔知識及び技能〕</p>	<p>●友達の活動を見て見通しをもち，順番を後半にする。</p> <p>●手順を言葉で伝えたり，手添えをしたりして正しくできるようにする。</p> <p>・示範や友達の様子を見ながら掃除をし，うとしていたか。〔学びに向かう力，人間性等〕</p>	<p>●友達の活動を見て見通しをもち，順番を後半にする。</p> <p>●手順を言葉で伝えたり，手添えをしたりして正しくできるようにする。</p> <p>・落ち着いて活動に参加できたか。〔学びに向かう力，人間性等〕</p>	<p>●友達と競うことなく，汚れがなくなるまで拭くことに意識がもてるように声掛けをする。</p> <p>・進んで掃除に取り組むことができたか。〔学びに向かう力，人間性等〕</p>	<p>●教師の示範で正しい用具の使い方をよく見せ，まねできるようにする。</p> <p>●分かりやすい指示や示範をし，意欲をもって活動できるようにする。</p> <p>・示範をよく見て理解し，掃除することができたか。〔学びに向かう力，人間性等〕</p>	<p>●友達に気を向けずに，集中してテーブルを拭けるように声掛けをする。</p> <p>・指示を聞いて，そのとおりに活動することができたか。〔学びに向かう力，人間性等〕</p>
<p>まとめ</p> <p>10：15 (5分)</p> <p>9 次時の予告</p> <p>10 終わりの挨拶をする</p>	<p>●汚れを見ながら掃除をし，汚れを取ることができたか。〔知識及び技能〕</p>	<p>●友達の活動を見て見通しをもち，順番を後半にする。</p> <p>●手順を言葉で伝えたり，手添えをしたりして正しくできるようにする。</p> <p>・用具を正しく使って掃除することができたか。〔知識及び技能〕</p>	<p>●友達と競わず，タイマーが鳴るまで，じゅうたんを掃除することに意識がもてるように声掛けをする。</p> <p>・汚れを最後まで丁寧に切り切ることができたか。〔知識及び技能〕</p>	<p>●順番を後半にして友達の活動を見ることができるようになる。</p> <p>●タイマーの音で活動を終えるよう事前に約束を確認する。</p> <p>●意欲を継続できるように声掛けをする。</p> <p>・学習の途中で気分を変えることができたか。〔学びに向かう力，人間性等〕</p>	<p>●教師の示範で正しい用具の使い方をよく見せ，まねできるようにする。</p> <p>●タイマーの音で活動を終えるよう事前に約束を確認する。</p> <p>●分かりやすい指示や示範をし，意欲をもって活動できるようにする。</p> <p>・用具を正しく使って汚れを取ることができたか。〔知識及び技能〕</p>	<p>●教師が示範や手添えを行い，正しく掃除用具を使えるように支援する。</p> <p>●集中して作業ができるよう声を掛ける。</p> <p>●友達の活動を見ることができるようになるように声掛けをする。</p> <p>・汚れを取ることに集中し最後まで掃除をすることができたか。〔知識及び技能〕</p>

年度	個人番号	学部	学年	番号	名前
令和3	小学部11	小学部	1	1	
<p>【長期目標設定の方針】個別の指導計画より ・実態や保護者の願いから、具体的な目標と手立てを学校と家庭で共有しながら、身辺処理でできることを増やしていく。また、教師や友達と一緒に活動することを通して、集団で活動する際のルールを身に付けられるようにしていく。さらに、様々な運動や課題学習を通して、意欲的に運動や学習に向かう力を育てていきたい。</p>					
<p>長期目標 <small>(3年後の目標)</small></p> <ul style="list-style-type: none"> ○身辺処理の仕方から、具体的な目標と手立てを学校と家庭で共有しながら、身辺処理でできることを増やす。 ○教師や友達と一緒に、集団生活のルールを守って生き生きと学習活動に取り組む。 ○体を動かすことに興味をもち、いろいろな運動に楽しんで取り組むことができる。 					
<p>短期目標 <small>(年間の重点課題)</small></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎身辺処理で、一人でできることを増やす。 					
<p>2 授業テーマ <small>年間活動計画シート番号</small> 10001</p>					
<p>生活 <small>教科・領域</small> おてつたいをしよう</p>					
<p>単元の中で自分ができる手伝いについて知り、必要な技能を身に付けることができる。知識及び技能 ・自分の役割が分かり、手順どおり活動することができる。(思考力、判断力、表現力等) ・家庭で取り組みたい手伝い、頑張りたい手伝いなどを選んで進んで運ぼうとする。(学びに向かう力、人間性等「主体的に学習に取り組む態度」)</p>					
<p>3. 個別の教科の目標 <small>単元における関連教科・領域</small> 「個別の指導計画」：関連教科・領域の目標(上段)／「個別の学習計画」：関連教科・領域の目標(下段)</p>					
国語					
小学部1段階	(7) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること。				
算数・数学	⑦具体物に気付いて指を差したり、つかもとうしたり、目で追ったりすること。				
小学部1段階	(7) 身の回りの集団に気付き、教師と一緒に参加しようとする。				
生活					
小学部1段階					
小学部1段階					
小学部1段階					
自立活動	<small>○身近な文字や数の理解を深める。(4-⑤) ○手指の巧緻性を高める。(5-⑤)</small>				
<p>単元での個人目標1 単元での個人目標2 個別の声掛けにより、周りに同じ活動ができる。</p>					
汚れを見え掃除をすることができる。					

単元での個人目標1 汚れを見え掃除をすることができる。	
学習の蓄積	学びの様子
<small>表示No</small> 2021/12/13 <small>1</small>	洗濯機を使って、洗濯機にTシャツを入れることができた。洗剤を入れ、水が出て洗濯機が回る様子を耳で聞けることができた。濡れたTシャツをハンガーに干すときは、濡れたTシャツを乾かすのに抵抗があり、ハンガーの滑りが悪いので、教師の手添えが必要だった。
<small>表示No</small> 2021/12/14 <small>2</small>	前日に干したTシャツをハンガーから外して、手でしわを伸ばしながら濡むことができた。端や角を揃えて置くよう声を掛けながら、手元を目線が向かなかったことで、教師が手添えをして一緒に取り組んだ。
<small>表示No</small> 2021/12/15 <small>3</small>	テーブルの汚れを見て、赤い線のある汚れを拭き取らせている。拭く時の力の入れ方は指示で行っているため弱さを感じる。
<small>表示No</small> 2021/12/16 <small>4</small>	縦線に付いた糸くずを身ながらカーペットクリナーで掃除をすることができていた。手元を見ていないときには、声を掛けずることを見え掃除をすることができた。
<small>表示No</small> 2021/12/17 <small>5</small>	ドラインネットのフロアワイパーを使ってガムテープで仕切られた範囲の掃除を行った。毛糸くずが全部なくなるように床を見ながら取り組むことができた。
<small>表示No</small> 2021/12/20 <small>6</small>	フロアワイパーとじゅうたんにあるゴミ(砂)をきれいにするために掃除機を使う活動を行った。床を身ながら、ゴミがある場所とない場所を見分け掃除機をかけることができていた。ゴミが残っている際には、教師やほかの児童からの声掛けにより、ゴミを見え掃除をすることができていた。
<small>表示No</small> 2021/12/20 <small>7</small>	個別の声掛けにより、周りに同じ活動ができる。
学習の蓄積	学びの様子
<small>表示No</small> 2021/12/13 <small>1</small>	濡れたTシャツを干す際には、教師の個別の声掛けと手添えにより干すことができた。
<small>表示No</small> 2021/12/13 <small>2</small>	着脱の座席は教室後手席だが、示範への注視をねらい、前方端に配置した。発言を言っていない、視線が定まらずいろいろなところを見ていたりする様子が多くあったが、T2の声掛けにより、T1の方を向くことができた。
<small>表示No</small> 2021/12/14 <small>3</small>	Tシャツを濡む指示を聞き返していたので、個別に声を掛けることで活動に取り組むことができた。
<small>表示No</small> 2021/12/15 <small>4</small>	きれいにしたいという意欲をもって、自分の順番をもって、自分の順番になると個別の声掛けがなくても掃除に取り組んでいた。
<small>表示No</small> 2021/12/16 <small>5</small>	座席を真ん中にする。用具の使い方について示範を行うときには、目の前で動作することで示範に意識を向けやすかった。また、用具を使うときには、持ち方を個別に声掛けすることで正しく使うことができた。
<small>表示No</small> 2021/12/17 <small>6</small>	フロアワイパーを動かす際には、直進して折り返す場所シールを印をつけていたが、掃除する範囲の全体を拭くのではなく、みがある場所だけを拭いていた。計画した活動とは違ったが、みを見え掃除することが本児の目標だったのをごみを掃くことに重点をおいて掃除に取り組めるようにした。
<small>表示No</small> 2021/12/20 <small>7</small>	掃除機を持つ際には、手の力が足りず動かしきれない様子も見られたが、徐々に自分で前後、左右に動かすことができていた。掃除機を持ちながら身をかがめて、みを見え掃除をすることが見られた。



個別の学習計画

36UQON1m1W



個別の学習計画

ODER1n1eDZB



個別の学習計画

https://drive.google.com/drive/folders/1U8s...



個別の学習計画

シート一覧
https://sites.google.com/...



各学部の実践授業の指導案と
「授業づくりシート」
(中学部)

中学部 作業学習（木工班）学習指導案

日 時 令和3年12月21日（火）
10:00～11:00
（参観10:20～10:40）

場 所 中学部木工室
指導者 T1： 佐々木 俊輔
T2： 佐藤 静佳

1 題材名「販売会に向けて③（班別作業④）」

2 題材について

(1) 生徒観

中学部木工班は、1年生2名、2年生2名、3年生2名の計6名で構成されている。全員が知的障害を有している。5名が言葉による意思疎通が可能であり、1名は日常生活での動作や意思疎通等、頻繁に教師の支援を必要とする生徒である。

本題材は全体の実態に応じて計画するが、本研究テーマ「個別最適な学びの実現」に向け、達成状況を生徒が学ぶ姿から検証していく。本来であれば中学部木工班全員を検証したいところではあるが、支援の質と量の異なる生徒を選定して検証することで、今後の指標にすることができると考える。そのため、本授業では対象生徒2名（A、B）を抽出する。

対象生徒Aは、1年生であり、今年度から本校に在籍する生徒である。学習中における一斉指示を理解することができ、行動に移すことができる。また、慣れた教師や友達とは言葉でやり取りしたり、挨拶や要求等を自分から発信することはできるが、慣れていない教師や友達からの質問にはうなずいて返答したり、困ったことがあっても自分から発信することが難しかったりする様子が見られる。作業学習においては、手順や手本を示すと流れを理解しその通りに作業に取り組むことができる。また、同じ工程の仕事を担当する友達と協力しながら取り組むことができる。一方で、確認作業を友達に頼る様子が見られたり、丁寧さに欠けたりすることがあるため、適宜声掛けが必要である。

対象生徒Bは、2年生であり、小学部から本校に在籍する生徒である。作業学習は昨年度も経験しており、クラフト班で染色作業を担当していた。言葉による意思疎通が可能であり、友達と共同で行う作業では、友達の指示を聞いて一緒に取り組むことができ、教師が促すと他の生徒に向けて確認や報告をすることができる。しかし、自分から報告や確認を行うことが苦手であり、友達や教師の促しが必要であるという課題がある。初めての作業を行う際には、繰り返し取り組むことや個別の支援が必要であるが、慣れてくると視覚的に手順を示した教具等を自分で確認しながら取り組むことができる。また、短時間の作業であれば集中して取り組むことができるが、長時間の作業になると集中が持続せず、定期的に声掛けが必要である。

(2) 題材観

作業学習「班別作業」は4期に分かれている。各期間のねらいの下、年間を通して働く力を身に付けるための学習を継続的に積み重ねていく構成となっており、作った製品は販売する。

「班別作業①」では、作業に慣れることをねらいとし、「フラワーポット」の製作を通して、製品が出来るまでの流れや、道具の使い方への理解を深めた。「班別作業②」では、最後まで集中して丁寧に作業することをねらいとし、「ペン立て」の製作に取り組んだ。作業を分担することで自分や友達によさに気付き、仲間と協力して作業に取り組む態度を育んだ。「班別作業③」では、製品の質の向上と場に応じた適切なやり取りをねらいとし、「キャンドルホルダー」の製作に取り組んだ。作業内容が難しくなる中でも製品の質を意識しながら製作したり、作業場面では適切な言葉遣いや態度で依頼や報告をしたり、販売場面では適切な言葉遣いやマナーで接客したりする態度を育ててきた。また、これまでの製品作りを通して、ボンドでの接着や卓上ボール盤での穴開け、ルーターでの面取り、焼き印、ベルトサンダーやオービットサンダーなどでやすり掛けの工程に役割を分担しながら協力して取り組んできた。販売会は新型コロナウイルス感染症の影響により、学年毎の販売活動となったため、今年度は作業班毎の販売活動をまだ経験していない。

本題材では、1月17日に予定している大学での製品販売会に向けた製品作りや販売会の事前・事後学習を計画する。使う人のことを考えながらよりよい製品作りに取り組むことと場に応じた適切な態度を身に付けることをねらいとし、これまでの活動を通して身に付けた力を生かし、より発展的な内容に取り組むことができるようにする。使う人の視点で、製品に工夫や改善を加えながら、

質の高い製品作りを目指し、協力しながら活動することで仕事に対する達成感をもつことができるようにする。また、一人一人に応じた作業工程を工夫し、一人で作業に取り組むことができるよう配慮して、「できた」という成功体験を積むことができるようにする。

第1次では、校内販売会の改善点を検討したり、大学販売会に向けて日程や活動内容を確認したりすることで学習への意欲を高めることができるようにする。

第2次では、作業工程を工夫し役割を分担しながらキャンドルホルダーや新製品作りに取り組む。

第3次では、販売会に向けた物品準備や検品を行ったり、役割を交代しながら接客の仕方を練習したりする活動に取り組む。

第4次では、販売会や事後学習を行う。販売会は班の仲間と協力して販売活動を行うことができるようにペアリングを工夫する。事後学習は、他の班と合同で行いお互いの頑張りを認め合えるようにする。

以上の一連の学習を通して、生徒の働くことへの意欲や関心を高め、将来の職業生活や社会自立に向けて自ら進んで学習に取り組む態度を育むことができると考え、本題材を設定した。

(3) 指導観

指導にあたっては、以下の点に留意して支援を行う。

① 意欲を引き出し、主体的に取り組むための支援について（主体的な学びについて）

ア 学習に見通しをもち主体的に学習に取り組むことができるようするために、学習期間を四つに分割し、計画的に進められるように設定する。第1次では、本題材に関する興味・関心をもてるようねらいや内容を示し、意欲の喚起を図る。また、前回の販売会の反省を考え、次の販売会への目標を設定する。第2次は質を意識した製品作りを行う。生徒同士で製品を見合い、検討しながら質の向上を図ることができる環境を設定する。

イ 1月17日（月）に大学での販売会を設定し、製品を製作する上での意欲を高めていく。これまでの保護者や小学部など身近な人を相手にした販売会とは異なり、一般の方を対象とした販売会であることから、製品の質を高めるためにどのような改善が必要か、作業工程や役割分担について確認する場を設定する。

ウ 学習を進める中で、生徒それぞれの意見や考えが全体に反映され、改善につながるようにする。意見や考えの表出が難しい生徒に対しても、適切な指導内容の設定、評価を行い、個に応じた主体性や意欲の表れを適切に読み取るようにする。

② 人とのかかわりながら学びを広げ深める活動について（対話的な学びについて）

ペアで取り組む作業を意図的に設定し、互いに声を掛け合いながら作業に取り組めるようにする。また、次に担当する生徒へ製品を受け渡す際の自主的な作業の報告や依頼を促すとともに、検品の工程を加えることで、製品の質について生徒同士が話し合いながら取り組むことができるようにする。第3次では接客やマナーについて学習を行い、第4次の販売会で適切なかかわりができるようにする。

③ 本題材の学習内容に含まれる教科等との関連について

本題材の学習内容に含まれる各教科等は、国語、数学、職業・家庭、特別の教科道徳である。

国語	A 聞くこと・話すこと
数学	A 数と計算 B 図形
職業・家庭	A 職業生活 ア 働くことの意義 イ 職業
特別の教科道徳	勤労 礼儀 社会参画 公共の精神 自主 自律

(4) 研究主題との関連

本研究の目的は、児童生徒一人一人の教育的ニーズや学習状況に応じた授業づくりを行うことで個別最適な学びに資するものである。この目的のために、個別の指導計画や年間活動計画（単元計画）、育成を目指す資質・能力、各教科等の目標や内容、及び学習状況や障害特性を踏まえた指導を見える化する仕組みとして「授業作りシステム」を構築する。この「授業作りシステム」を基に授業づくりを行い、授業検討会で本実践の評価を行う。この「授業作りシステム」の活用を通じた教師の意識の変化や児童生徒の変容、単元の変容により、本研究の有効性を検証する。

3 題材の目標

観点	目標
知識及び技能	・使う人のことを考えながら、よりよい製品作りに取り組む。
思考力・判断力・表現力等	・販売時等，場に応じた適切な態度や行動をしたり，相手とやり取りしたりすることができる。 ・作業工程全体の見通しをもち，自分の役割に気付くことができる。
学びに向かう力，人間性等	・製品を全員で作上げる達成感や喜びを感じ意欲的に作業に取り組もうとする。

4 学習計画（38時間扱い 本時21，22／38時間）

学習期間	時数	学習内容
12/6(月) 第1次	2	・販売会の開催について，日時，場所等を知る。 ・校内販売会の振り返りをし，改善点を検討する。
12/7(火)～12/21(火) 第2次 本時19，20/20	20	・キャンドルホルダー，新製品を製作する。 ・工程ごとに製品の質をチェックする。 ・製作した製品の在庫数を確認する。
1/12(水)～1/14(金) 第3次	6	・2グループに分かれて接客練習を行う。 ・製品の質について，最終確認を行う。 ・販売会に必要な物品を確認し，準備する。
1/17(月)～1/21(金) 第4次	10	・大学生協で販売を行う。 ・販売会の振り返りを行う。

5 本時の計画

(1) 小単元名

「キャンドルホルダーを作ろう」

(2) 本時の目標

観点	目標
知識及び技能	・使う人のことを考えながら，丁寧に製品作りに取り組むことができる。
思考力・判断力・表現力等	・報告や依頼等，場に応じた適切な態度や行動をしたり，相手とやり取りしたりすることができる。
学びに向かう力，人間性等	・作業工程での自分の役割を果たすことの大切さに気付き，製品作りに進んで取り組もうとする。

(3) 生徒の様子、目標、手立て・評価

対象生徒	本時にかかわる生徒の様子	個別の指導計画		評価の観点
		本時の目標	手立て	
生徒A	<ul style="list-style-type: none"> 手順や手本を示すとその通りに作業を進めることができる。しかし、丁寧さに欠けたり、確認作業を友達に任せたりすることが多い。 報告や依頼、受託を一人でできるようになってきたが、作業をしている友達に声を掛けることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自分で仕上がりを確認しながら丁寧に作業に取り組むことができる。(職業・家庭A職業生活2段階) ②適切なタイミングで報告や依頼を行うことができる。(国語A聞くこと・話すこと小学部3段階) 	<ul style="list-style-type: none"> ①見本や確認するポイントを示したカードを提示したり、教具を用いて深さを確認することができるようにしたりする。 ②報告や依頼のタイミングを実際の場面で確認したり、報告の仕方の手本を示したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自分で深さを確認しながら穴を開けることができたか。(知識及び技能) ②相手の聞く準備が整ってから報告や依頼をすることができたか。(思考力・判断力・表現力等)
生徒B	<ul style="list-style-type: none"> 慣れてくると視覚的に手順を示した教具等を自分で確認しながら取り組むことができるが初めての作業を行う際には、個別の支援や繰り返し取り組む必要がある。 教師の支援に応じて他の生徒に向けて確認や報告をすることができるが、自分から報告や確認を行うことが苦手であり、友達や教師の促しが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①手順通りに作業に取り組むことができる。(職業・家庭A職業生活(ア)④中学部1段階) ②作業に関する報告や依頼などを自分から行うことができる。(国語A聞くこと・話すことエ小学部3段階) 	<ul style="list-style-type: none"> ①作業手順表や写真を作業台の見えるところに置き、手順を自分で確認できるようにする。また、道具の使い方を一緒に確認する。 ②報告や依頼をする相手の写真を作業手順表の中に示すことで、自分から報告や依頼ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①手順表に示された通りにニス塗りを行うことができたか。(知識及び技能) ②定型文を使って自分から報告や依頼をすることができたか。(思考力・判断力・表現力等)
生徒C	<ul style="list-style-type: none"> 接着等の作業を理解し丁寧に取り組むことができるが集中が持続しないことがある。 声掛けに合わせてお辞儀をしながら相手に製品を渡すことができるが、相手に体を向けていないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自分の役割を理解し、教師と一緒に最後まで取り組むことができる。(職業・家庭A職業生活中学部1段階) ②相手を意識しながら、適切な態度で依頼することができる。(職業・家庭A職業生活中学部1段階) 	<ul style="list-style-type: none"> ①作業工程をイラストカードで提示したり、初めに作業量を示したりし、見通しをもつことができるようにする。 ②依頼する相手を顔写真カードで提示する。また、依頼の場面では相手の方を向くように声掛けなどをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①接着や色を塗る作業に最後まで取り組むことができたか。(知識及び技能) ②相手のいる場所まで自分で移動したり相手に体を向けたりしながら依頼することができたか。(思考力・判断力・表現力等)
生徒D	<ul style="list-style-type: none"> 買い手を意識して質を確認することができるようになってきている。 他の生徒が作業中に困っていると、自分から声を掛けて手伝うことがある。時折、自分の作業よりも他者の作業を気にしすぎることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①製品の質を維持しながら作業に取り組むことができる。(職業・家庭A職業生活(ア)④中学部2段階) ②伝えたいことを整理して話をするすることができる。(国語A聞くこと・話すことイ中学部3段階) 	<ul style="list-style-type: none"> ①検品のチェック表を壁に貼り、穴開けの工程の後に製品の質を確認することができるようにする。 ②明確に伝わらないときは、教師から質問をしながら、一緒に何を伝えたいのかを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①項目に沿って検品作業を行うことができたか。(知識及び技能) ②作業工程の中で、困ったときに話すことを教師に明確に伝え、相談することができたか。(思考力・判断力・表現力等)

生徒E	<ul style="list-style-type: none"> 作業内容を理解し最後まで集中して作業に取り組むことができるが、ステンシルでは着色時に色がにじむことがある。 いくつかの作業工程を担当することができる。優先順位を教師と相談しながら考えることができる。 	<p>①製品の質について理解し正確に作業に取り組むことができる。 (職業・家庭A職業生活 中学部2段階)</p> <p>②いくつかの作業工程を担当し優先順位を判断しながら取り組むことができる。 (職業・家庭A職業生活 中学部2段階)</p>	<p>①着色のポイントを事前に本人と確認する。手元に見本を提示し確認することができるようにする。</p> <p>②担当する工程カードを優先度の高い順に上から並べて示すことで優先順位を判断することができるようにする。</p>	<p>①塗る前に筆の状態を確認しながら作業に取り組むことができたか。 (知識及び技能)</p> <p>②工程カードを見て必要な作業から優先的に取り組むことができたか。 (思考力・判断力・表現力等)</p>
生徒F	<ul style="list-style-type: none"> 手順を示すと、その通りに作業に取り組むことができるが、丁寧さに欠けることがある。 同じ作業をする生徒とコミュニケーションをとりながら、連携して作業に取り組むことができるが、時折語気が強まることある。 	<p>①塗りむらなく、均等にニスを塗ることができる。 (職業・家庭A職業生活 (ア)④中学部1段階)</p> <p>②適切な言葉遣いでやりとりをすることができる。 (職業・家庭A職業生活 (イ)⑦中学部1段階)</p>	<p>①ニスを塗る際、見本を机の上に置き、見比べることができるようにする。</p> <p>②打ち合わせの際に、作業中の態度や姿勢について全体で確認する場面を設ける。また、作業中の注意事項として壁面に掲示し、促す。</p>	<p>①見本通りにニスを塗ることができたか。 (知識及び技能)</p> <p>②友達にアドバイスをする際、正しい言葉遣いと声の大きさとで話すことができたか。 (思考力・判断力・表現力等)</p>

(4) 学習過程 (別紙1)

(5) 本時の評価

① 生徒の評価

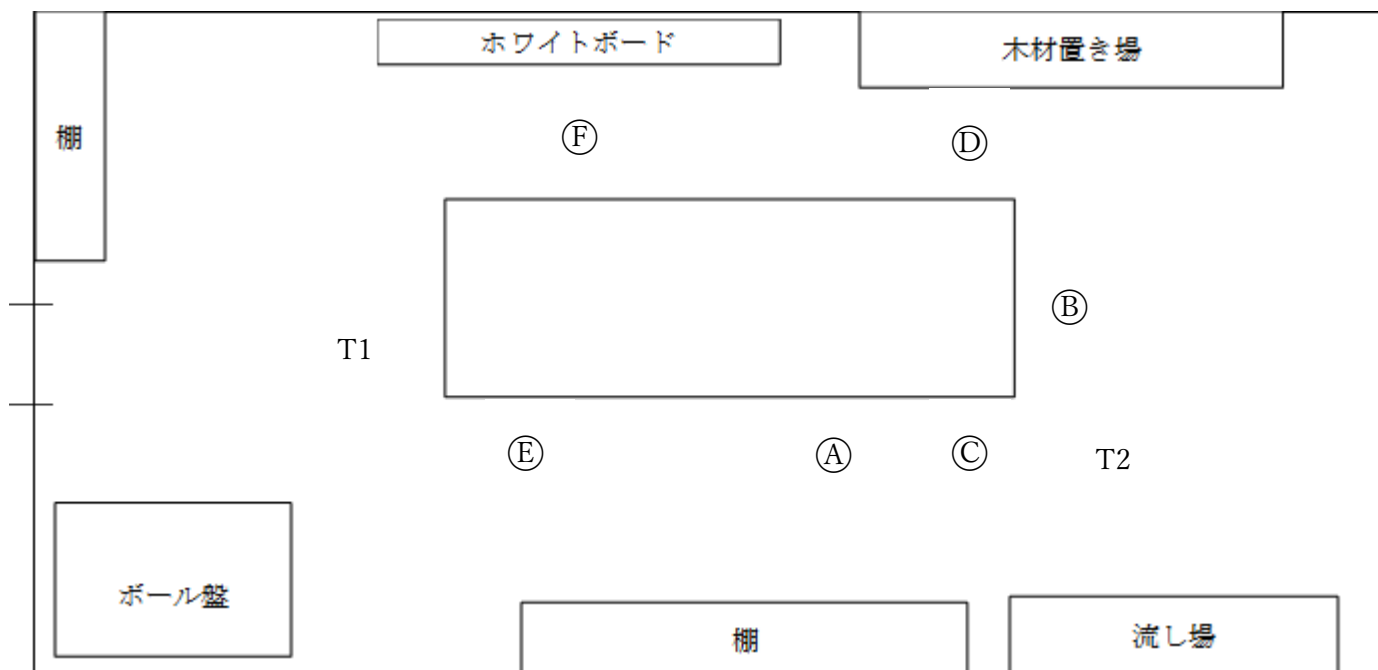
観点	目標
知識及び技能	・製品の質を意識しながら丁寧に製品作りに取り組んだり、検品したりすることができたか。
思考力・判断力・表現力等	・作業内容や依頼・報告について自分で確認したり、友達同士で確認し合ったりしながら活動に取り組むことができたか。
主体的に学習に取り組む態度	・自分の役割の大切さに気付き、友達と協力しながら製品作りに進んで取り組もうとしていたか。

② 教師の評価

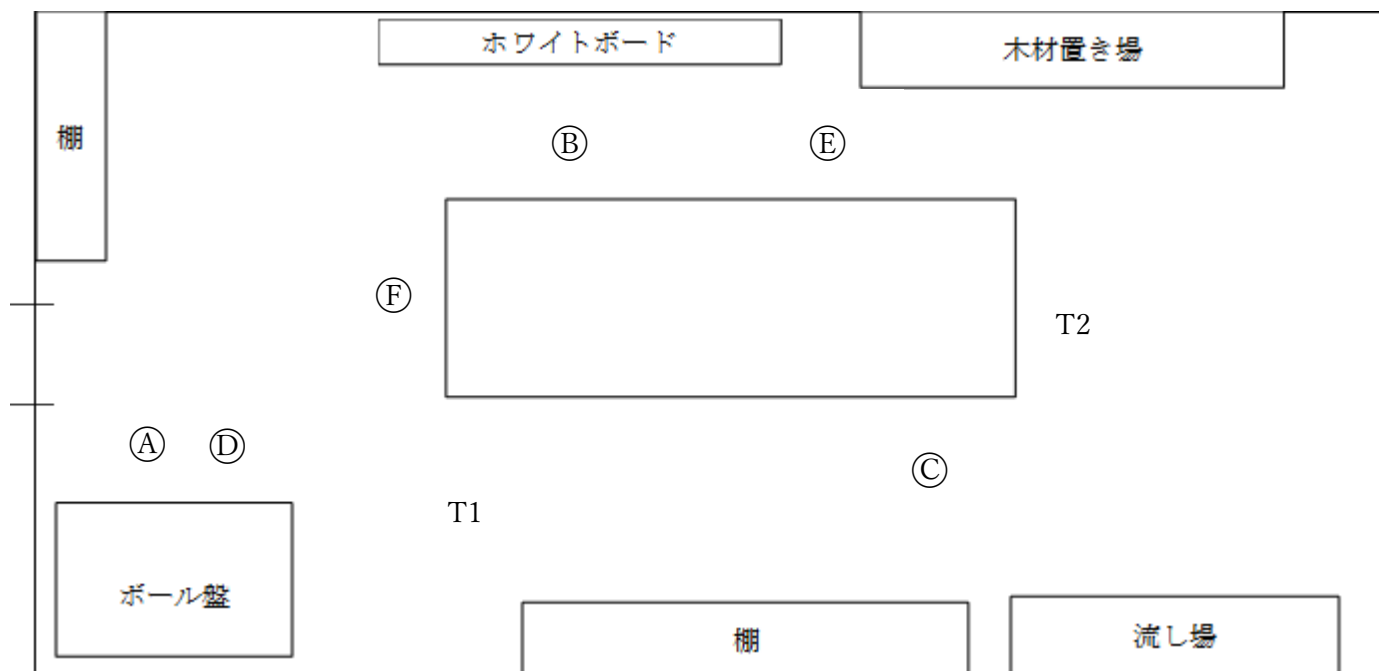
- ・目標設定、学習内容、指導方法、教材・教具は適切であったか。
- ・個に応じた指導を適切に行うことができたか。

(6) 場の設定

〈打合せ時〉



〈作業時〉



(4) 学習過程 (別紙1)

区分 配時	全体の学習活動 (11)	○児童生徒の学習活動 ●：教師の支援						評価の場面
		生徒A	生徒B	生徒C	生徒D	生徒E	生徒F	
導入 10:00 (10分)	1 集合・出欠の確認 2 始めの打合せ ・作業内容の確認をし、作業日誌を記入する。		●なぞり書きで作業内容を書くことができる。	●なぞり書きで作業内容を書くことができる。	姿勢や身だしなみを整え、ホールに整列する			○整列の声掛けを行う。
展開 10:10 (35分)	3 作業 ・材料や道具を準備して作業に取り組む。 ・工程ごとに行った作業の質の確認を行う。 ・自分の工程が終わったら、次の人に報告、依頼を行う。	○穴開けを担当し、作業に取り組む。 ●見本や確認するポイントを示したカードを提示したり、教具を用いて深さを確認することができるようにしたりする。 自分で深さを確認しながら穴を開けることができたか。〔知・技〕	○やすり掛け、ニス塗りに取り組む。 ●作業手順表や写真や作業台の見えるところに置き、手順を自分で確認できるようにする。また、道具の使い方を一緒に確認する。 手順表に示された通りにニス塗りをすることができたか。〔知・技〕	○ボンドでの接着や色塗りに担当し、作業に取り組む。 ●作業工程をイラストカードで提示したり、初めに作業量を示したりし、見通しをもつことができるようにする。 接着や木材を並べる作業に最後まで取り組むことができたか。〔知・技〕	○穴あけを担当し、作業に取り組む。 ●製品のチェック表を壁に貼り、穴開けの工程の後に製品の質を確認することができるようになる。 項目に沿って検品作業を行うことができたか。〔知・技〕	○ステンシル、クランプ、やすり掛け、検品を担当し、作業に取り組む。 ●着色のポイントを事前に本人と確認する。手元に見本を提示し確認することができるようになる。 塗る前に筆の状態を確認しながら作業に取り組むことができたか。〔思・判・表〕	○やすり掛け、ニス塗りに担当し、作業に取り組む。 ●ニスを塗る際、見本を机の上に置き、見比べることができるようになる。 見本通りにニスを塗ることができたか。〔知・技〕	
		●報告や依頼のタイミングを実際の場面で確認したり、報告の仕方を掲示したりする。 相手の聞く準備が整ってから報告や依頼をすることができたか。〔思・判・表〕	●報告や依頼相手の写真を作業手順表の中に示すことで、自分から報告や依頼ができるようになる。 定型文を使って自分から報告や依頼をすることができたか。〔学向力〕	●依頼する相手を顔写真カードで提示する。また、依頼の場面では相手の方を向くように声掛けなどをする。 相手のいる場所まで自分で移動したり、相手に体を向けたりしながら依頼をすることができたか。〔思・判・表〕	●報告や依頼が明確に伝わらないときは、教師から質問をしながら、一緒に何を伝えたいのかを整理する。 作業工程の中で、困った時に話すことを教師に明確に伝えることができたか。〔思・判・表〕	●担当する工程カードを優先度の高い順に上から並べて示すことで優先順位を判断することができるようにする。 工程カードを見て必要な作業から優先的に取り組むことができたか。〔思・判・表〕	●打ち合わせの際に、作業中の態度や姿勢について全体で確認する場面を設ける。また、作業中の注意事項として壁面に掲示し、促す。 友達にアドバイスをする際、正しい言葉遣いと声の大きさを話すことができたか。〔思・判・表〕	
	4 片付け・清掃。 ・使用した材料や道具を片付け、清掃する。	○教室の床を掃く。	○窓の外の落ち葉を掃く。	○机上の掃き掃除を行う。	○教室の床を掃く。	○木くずを掃除機で吸い取る。 ○黒板に書いてある日付等 次の日のものにする。	○廊下の掃き掃除を行う。	
まとめ 10:45 (15分)	5 終わりの打合せ ・本時の作業を振り返り、作業日誌に反省をまとめる。	<p>使用した材料や道具を片付け、清掃する。</p> <p>本時の作業を振り返り、作業日誌を記入する。</p> <p>●作業日誌を書く際に、ホワイトボードの作業予定を見て振り返り、活動に基づいた反省をまとめられるようにする。 ●実態に応じて、本時の振り返りに書くよう声掛けを行う。 ●完成品を提示しながら、本時の活動でのよかった点等を称賛し、次時への意欲付けをする。</p>						

年度 令和 3	個人番号 中学部24	学部 中学部	学年 2	番号 4	名前 対象生徒A
【長期目標設定の方針】個別の指導計画より					
<p>美形と依拠者の願いから、身体を変える力や運動技能を高め、日常生活を円滑に送ることができるよう、様々な運動課題を設定する。また、コミュニケーション面では、言葉を広げることを目指し、言葉や文字の学習をする。さらに、身体処理のできることを増やしていく。</p>					
<p>長期目標 (3年後の目指す姿)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バランス感覚や姿勢を保持する筋力が生活に必要な体力を身に付ける。 ○友達と自らかかわり合おうとすることができる。 ○着替えや身だしなみなど、身体処理のできることを増やす。 					
<p>短期目標 (年間の重点課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎自分の気持ちや要求を相手に分かるように伝える。 					
➡					
<p>2 授業テーマ 20001 年間活動計画 シート番号</p>					
<p>【作業学習】 販売会に向けて③(班別作業④)</p>					
<p>単元のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使う人のことを考えながら、よりよい製品作りに取り組み。(知識・技能) ・販売時等、場に応じた適切な態度や行動をしたり、相手とやり取りしたりすることができる。(思考力、判断力、表現力) ・作業工程全体の見通しをもち、自分の役割に気付くことができる。(思考力、判断力、表現力) ・製品を全員で作りに上げる達成感や喜びを感じ意欲的に作業に取り組もうとする。(学びに向かう力、人間性) 					
<p>3 個別の教科の目標</p>					
<p>単元における関連教科・領域 「個別の指導計画」：関連教科・領域の目標(上段)／「個別の学習計画」：関連教科・領域の目標(下段)</p>					
<p>国語 小学部3段階 エ 挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。</p>					
<p>算数・数学 小学部1段階 ⑦具体物に気付いて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。⑧数を正しく数えたり書き表したりすること。</p>					
<p>職業・家庭 ○相手の家庭生活や仕事につながる技能や言葉遣いなどを身に付ける。</p>					
<p>中学部1段階 ④ 作業課題が分かり、使用する道具等の扱い方に慣れること。</p>					
<p>小学部1段階</p>					
<p>小学部1段階 自立活動 ◎自分の気持ちや要求を自分から相手に分かるように伝える。(6-②) ◎4～5文字の言葉を書き正しく読む。(4-⑤) ◎5までの数を理解する。(4-⑤) ◎操作課題に取り組む目と手の協働を図る。(5-⑤)</p>					
➡					
<p>単元での個人目標1 手順通りに作業に取り組むことができる。</p>					
<p>単元での個人目標2 作業に関する報告や依頼などを自分から行うことができる。</p>					

<p>単元での個人目標1 手順通りに作業に取り組むことができる。</p>	
学習の番種	学 び の 様 子
表示No 1	2021/12/10 ニスを塗る際、自分の担当する場所にはけでニスを塗ることができたが、くぼみにニスが溜まってしまっていた。
表示No 2	2021/12/16 手順通りに作業に取り組んでいた。時々、先輩に教えてもらいながら行う様子が見られた。
表示No 3	2021/12/16 道具を置く場所を理解してやり取りすることができていた。
表示No 4	2021/12/16 友達と一緒にオービットでやすりがけすることができたが、お客さんが来た場面で緊張し、動きが小さくなるがあった。
表示No 5	2021/12/17 マグネットを動かしながら、手順通り塗ることができるようになってきた。手順の中でとばしてしまったりしたところもあったが、友達に指摘されるとやり直して取り組んでいた。
表示No 6	作業に関する報告や依頼などを自分から行うことができる。
表示No 7	単元での個人目標2 作業に関する報告や依頼などを自分から行うことができる。
学習の番種	学 び の 様 子
表示No 1	2021/12/13 報告を受ける際、相手に対して礼をすることができたが、しぶんから「はい」と言う姿はみられなかった。
表示No 2	2021/12/14 報告を受ける際、相手が待っていると自分から「はい」と言うことができたが、教師を意識し、教師をみながら「はい」と言っていた。
表示No 3	2021/12/15 同じ作業に取り組む友達と一緒に、オービット後に次の作業の依頼することができた。
表示No 4	2021/12/16 依頼されたものを受け取ることができていたが、報告する場面は見られなかった。
表示No 5	2021/12/17 教師に確認をお願いする際、相手のほうをみて「お願いします」と言うことができ、確認をしてほしい際に相手を呼ぶまじには至らなかった。
表示No 6	これまでに練習した学習後付 学習の様子 身 加 四 時 は こ ち ろ
表示No 7	シート一覧 https://sites.google.com/



年度 令和 3	個人番号 中学部13	学部 中学部	学年 1	番号 3	名前 対象生徒B
---------------	---------------	-----------	---------	---------	-------------

【長期目標設定の方針】個別の指導計画より
 ・本人と保護者の願い、実態から、一人で行動することができるように、暗算や計算、身近な言葉の読み書きなどについて理解できることを増やしたい。
 ・整理整頓や清掃の仕方を身に付けて学習生活につなげていきたい。
 ・学習活動全般を通して将来に向けて興味のあることや得意なことを見つけていきたい。

長期目標
 (3年後の目標予定)
 ○身近な漢字の読み書きや金銭の計算など、理解できることを増やす。
 ○身近な整理整頓、清掃などを一人で行うことができる。
 ○友達とのかわりや学習活動を通して自分の好きなことや得意なことを見付ける。

短期目標
 (年間の重点課題)
 ◎読み書きできる言葉や漢字を増やしたり、金銭などの計算を正しく行ったりし、日常生活に生かす。

2 授業テーマ	年間活動計画シート番号 20001
教科・領域	単元名 販売会に向けて③(班別作業④)

【作業学習】
 ・使う人のことを考えながら、よりよい製品作りに取り組み。(知識・技能)
 ・販売時等、場に応じた適切な態度や行動をしたり、相手とやり取りしたりすることができる。(思考力、判断力、表現力)
 ・作業工程全体の見通しをもち、自分の役割に気付くことができる。(思考力、判断力、表現力)
 ・製品を全員で作りに上げる達成感や喜びを感じ意欲的に作業に取り組もうとする。(学びに向かう力、人間性)

3. 個別の教科の目標

単元における関連教科・領域	「個別の指導計画」：関連教科・領域の目標(上段)／「個別の学習計画」：関連教科・領域の目標(下段)
国語	
小学部3段階	エ 挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。
算数・数学	
職業・家庭	○相手の家庭生活や仕事に必要なことを知り、技能や態度を身に付ける。
中学部2段階	④ 作業の確実性や持続性、巧緻性等を身に付けること。
自立活動	◎身近な漢字を知り、読んだり書いたりする。(2-⑤) ◎金銭の計算を正しく行う。(2-⑤)

単元での個人目標1	単元での個人目標2
自分で仕上がりを確認しながら丁寧に作業に取り組み、適切なタイミングで報告や依頼を行うことができる。	自分で仕上がりを確認しながら丁寧に作業に取り組み、適切なタイミングで報告や依頼を行うことができる。



個別の学習計画

Jhupv415INVFID

個別の学習計画



個別の学習計画

ODERenDnDZB

個別の学習計画



個別の学習計画

https://drive

個別の学習計画

シート一覧

https://sites.02

単元での個人目標1	自分で仕上がりを確認しながら丁寧に作業に取り組み、適切なタイミングで報告や依頼を行うことができる。
学習の蓄積	学びの様子
2021/1/2/07	友達と一緒にキャンパスを入れるなどして穴の深さを確認する。
2021/1/2/08	まずは自分で穴の深さを確認してから友達に確認の依頼をする。→キャンパスを入れたりの印のついた棒で高さを確認したりしてから友達に確認の依頼することができた。(台を使用することで目標が高くなった。)
2021/1/2/09	相手のサイズを合わせることで教員を扱いやすい棒が見られた。掃除機に手を当て遊ぶ棒が見られた。棒の深さを確認することができた。
2021/1/2/13	自分で教員を使用し穴の深さを確認することができた。
2021/1/2/16	教員を活用しているが、深さを判断するための教員で、どのようになつたら製品としていいのか、悩んでいる棒が見られた。(首をかきつけていたため)
2021/1/2/16	自分から深さを確認しようとはしていたが、教員が穴に列して斜めになつたり、昇る位置が目線に合っていないかたたりしてうまく見えた。キャンパスホルダーを固定しているクランプを外す前に深さを確認することの大切さを確認することができた。
2021/1/2/16	友達と協力して取り組んでいる棒が見られたが、穴をあける際に穴の空く部分に注視していない棒が見られた。深さを確認する際は、動画の角度にもよるが、しっかりと確認ができていたのかは分からないかと思えた。また棒の深さを確認する際は、動画の角度にもよるが、しっかりと確認ができていたのかは分からないかと思えた。

単元での個人目標2	適切なタイミングで報告や依頼を行うことができる。
学習の蓄積	学びの様子
2021/1/2/07	オービットサンダーの作業をしているときに「今よろしいですか」と声を掛ける。→先輩が気付かずに止めるように「はい」と声を掛ける。→先輩が気付かずに止めるように「はい」と声を掛ける。→先輩が気付かずに止めるように「はい」と声を掛ける。
2021/1/2/08	オービットをかけるAさんに昨日より少し大きな声で「今よろしいですか」と声を掛け、相手の準備が整ってから相手に渡すことができた。
2021/1/2/09	オービットが止まっているときに「今よろしいですか」とAさんに声をかけることができた。「掃除機の前にも掃除機をお願いします」と友達に声を掛ける様子が見られた。
2021/1/2/13	友達が掃除機の作業を終えるのを待って確認の依頼をすることができた。Aさんが友達の方を向いてから依頼することができた。
2021/1/2/16	相手に話しかけ、相手が振り向くまで次の話を待っている様子が見られていた。
2021/1/2/16	相手の作業の手が止まるまでそばで待つことができた。
2021/1/2/16	依頼相手の場所まで行き、相手の準備が整うまで待つことができていた。依頼の仕方も丁寧な言葉遣いで声の大きさも丁度よく感じた。



各学部の実践授業の指導案と
「授業づくりシート」
(高等部)

高等部 作業学習（総合サービス業班）指導案

日 時 令和3年12月21日（火）

10:40～11:50

（参観 10:40～11:50）

場 所 高等部作業室（作業棟3階）

指導者 T1： 村越 郁哉

T2： 神山 貴子

1 題材名「名刺販売会をしよう」

2 題材について

(1) 生徒観

総合サービス業班は、1年生2名、2年生3名、3年生3名の計8名で構成されている。知的障害の程度は、軽度が3名、中～重度相当が5名であり、全員が自閉スペクトラム症を併せ有している。言葉による意思疎通が可能な生徒が7名、文字や分担表など、視覚支援を介して意思疎通を行う、教師の支援が必要となる生徒が1名である。卒業後の進路希望は、一般就労を希望する生徒が4名、福祉的就労を希望する生徒が4名となっている。

以上のように、本グループは障害による困難さや発達年齢、学び方の特性など個人差が大きい。本単元は学習グループ全体の実態に応じて計画するが、本研究テーマ「個別最適な学びの実現」に向け、達成状況を児童生徒が学ぶ姿から検証していく。本来であればグループ全員を検証したいところではあるが、支援の質と量が異なる生徒を選定することで焦点化して検証することで、今後の指標にすることができると考える。そのため、本授業では指導案上、対象生徒2名（A、B）を抽出する。

対象生徒Aは、2年生であり、卒業後の進路は一般就労を希望している。これまでの学習において、受託作業、オリジナル名刺やリサイクル封筒の製作を経験している。名刺製作では、主に手書き文字のデザインや名刺を台紙からはがす作業、梱包や納品の工程を担当しており、名刺製作の一連の流れを理解している。日常生活、学習中ともに、指示や助言に対して素直に対応することができ、何事にも意欲的に取り組むことができる。周囲とのかかわりでは、相手の話に耳を傾けることができ、友達との会話を楽しむ様子が見られる。その一方で、自ら友達に話し掛けたり、自分の思いを伝えたりすることに不安を感じて消極的になり、相手に合わせて行動しがちな面がある。そのため、確認や相談が必要な場面において、確認不足や相談すべきことを怠ってしまう等の課題が挙げられる。また、班員や担当教師以外との応対や接客の場面が名刺納品の際にしか設定できておらず、お客様などの他者とかかわることが必要である。

対象生徒Bは、1年生であり、卒業後の進路は福祉的な就労を希望している。高等部から本校に入学した生徒で、言葉による意思疎通が可能である。一斉指示での理解は難しく、初めての作業種や役割を行う際や分からないことがあると、行動が停滞することがあり、教師の促しで作業への取り組みを再開することができる。確認や報告など、他者とかかわりについては、定型のやり取りであれば、忘れずに行うことができるが、相手の話や指示を聞いて正確に行動したり、返答したりすることは難しい。これまでの作業学習では、Aと同様の作業を経験している。名刺製作では、主に台紙から名刺をはがす作業や梱包を担当してきた。初めての作業を行う際には、個別での指示や繰り返し体験的に取り組む必要がある。また、自分の行うべき役割には集中して取り組むことができるが、自分の担当する作業が全体の中でどのような位置付けであるのか、何のために行っているかの見通しをもつことが難しい等の課題が挙げられる。

対象生徒A、Bは他者とかかわりに課題があること、見通しや学習のゴールが見えると力を発揮しやすいこと、また、それぞれの目指す卒業後の自立と社会参加の姿が異なるため、個別の指導計画に基づき、各教科等を合わせた指導である作業学習においても、個に応じた指導内容を適切に設定し指導を行っていく必要がある。

(2) 題材観

本題材は、特別支援学校指導要領および、特別支援学校学習指導要領解説知的障害者教科等編（下）高等部、職業科A職業生活の内容を主として扱う。新型コロナウイルス感染症の影響により、年間活動計画の内容を大幅に変えて学習を行わざるを得ない状況になり、計画していた喫茶など、人とかかわりの中で学ぶ学習を行うことができなかった。その代替として、名刺の受注、販売、リサイクル作業、受託作業（事務補助、会場設営等）を行ってきた。学習に取り組む中で、現在行っている学習内容が、生徒の実態や進路希望にふさわしい指導が適切に行えない課題が見えてきた。そのため、個に応じた指導を適切に行うことができる学習内容や、作業班の編成を見直していているところである。

本題材では、1月25日に予定している大学生協での名刺販売会に向けた準備と振り返りの学習で計画する。本題材の主となる学習内容は、名刺販売会に必要な情報（接客の仕方、準備物）を仲間同士で話し合ったり、販売会に向けた準備をしたりすることである。そして実際の販売会、その後の振り返りの学習を経ることで、他者とかかわりながら自分の力を発揮し、問題を解決していかうとする態度を育てていく。

第1次は、これまでの名刺製作の過程を踏まえて、名刺販売会のねらいや日程、活動内容に見通しをもった上で、学習への興味・関心を喚起し、販売会に向けて計画を立てる学習に取り組む。

第2次は、「名刺販売会の準備をしよう①」とし、第一次で立てた計画を基にして、接客の方法を考えたり、仲間と練習したりする活動に取り組む。期間の前半は様々な役割を経験するようにする。期間の後半は販売会当日に向けた役割分担を決定し、練習や準備に取り組む。

第3次では、「名刺販売会の準備をしよう②」とし、総合サービス業班以外の教師や生徒を相手に、販売会の練習を行う。その際に、意見や助言をもらい、改善に生かすことができるようにする。また販売会に向けた物品準備や最終確認を行ったり、当日の流れや動きを班員全員で確認したりしながら第4次の販売会につなげる。

第5次は、「事後学習」として、販売会を映像で振り返ったり、売上げ結果を共有したりする。

以上の一連の学習を通し、対仲間、対教師、対お客様と他者とかかわりを広げる過程で、自立と社会参加の姿の実現に向け、個に応じた指導を展開することができると考え、本題材を設定した。

(3) 指導観

指導にあたっては、以下の点に留意して支援を行う。

① 意欲を引き出し、主体的に取り組むための支援について（主体的な学びについて）

ア 学習に見通しをもち主体的に学習に取り組むことができるようにするために、学習期間を4つに分割し、計画的に進められるように設定する。第1次では、本題材に関する興味・関心をもてるようねらいや内容を示し、意欲の喚起を図る。第2次は冬休みに入る12月23日（木）までの期間を利用し、接客練習を繰り返し行う中で、生徒同士が互いに見合い、指摘し合いながら改善を図っていくとする環境を設定する。

イ これまでの名刺販売の方法は、注文受付、1週間から1か月程期間を頂いて、納品するという形で行ってきたが、今回の販売会では、受付後、即日納品の形を目指す。これまでは製作の期間を取って行ってきた名刺を、どのようにすれば即日で納品することができるか、何を準備すべきか、役割分担をどうするか等、改善点や解決すべきポイントを一つ一つ考え、整理しながら学習を進められるようにする。

ウ 学習を進める中で、生徒それぞれの意見や考えが全体に反映され、改善につながるようにする。意見や考えの表出が難しい生徒に対しても、適切な指導内容の設定、評価を行い、個に応じた主体性や意欲の表れを適切に読み取るようにする。

② 人とかかわりながら学びを広げ深める活動について（対話的な学びについて）

第2次の段階から、生徒同士で接客の様子を見合ったり、自分の接客の様子を動画で振り返ったりすることで、客観的な見え方を知り、自分の改善につなげられるようにする。また、第三次では、総合サービス業班以外の教員や他生徒をお客様として設定したり、意見をもらったりする機会を設定し、他者からの意見と自分の考えを比較検討しながら改善していく機会とする。

③ 本題材の学習内容に含まれる教科等との関連について

本題材の学習内容に含まれる各教科等は、国語、数学、社会、職業・家庭、特別の教科 道徳である。

国語	A 聞くこと・話すこと
数学	A 数と計算
社会	ア 社会参加ときまり
職業・家庭	A 職業生活 ア 働くことの意義 ア 勤労の意義 イ 職業 B 情報機器の活用
特別の教科 道徳	礼儀 相互理解, 寛容, 勤労, 公共の精神

(4) 研究主題との関連

本研究の目的は、児童生徒一人一人の教育的ニーズや学習状況に応じた授業づくりを行うことで個別最適な学びに資するものである。この目的のために、個別の指導計画や年間活動計画、育成を目指す資質・能力、各教科等の目標や内容、及び学習状況や障害特性を踏まえた指導を見える化する仕組みとして「授業作りシステム」を構築する。この「授業作りシステム」を基に授業づくりを行い、授業検討会で本実践の評価を行う。この「授業作りシステム」の活用を通じた教師の意識の変化や児童生徒の変容、単元の変容により、本研究の有効性を検証する。

3 題材の目標

観 点	目 標
知識及び技能	習得した事務作業の基礎的な技能を生かし、接客の態度など人とのかかわり方を身に付けることができる。
思考力・判断力・表現力等	実践を通して、状況や場に応じた柔軟な対応ができる。
学びに向かう力、人間性等	接客への関心をもち、最後まで取り組もうとする。

4 学習計画（4 1時間扱い 本時 19, 20 / 4 1時間）

学習期間	時数	学習内容
第1次 オリエンテーション 12/2 (木)	3	<ul style="list-style-type: none"> ・販売会の開催について、日時、場所等を知る。 ・販売会に向けた日程、準備物を知る。 ・即日発行の方法を、過去の動画や写真を見て、知る。
第2次 (名刺販売会の準備をしよう①) 12/6(月)～1/20(木)	2 4	<p>12/6(月)～12/14(火) (8時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名刺注文の受け方(接客)や、即日発行の仕方を知る。 ・名刺注文の受け方や即日発行の仕方を練習する。 ・練習の様子を動画や写真を見ながら振り返る。改善点を生徒同士が互いに見付けたり、話し合ったりする。 ・予約販売の方法について知る。 <p>12/15(水), 16(木) (6時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売会当日の役割分担を決める。 ・役割分担ごとの動きを確認し、接客練習を行う。 ・予約販売の方法を確認する。大学の先生方や、保護者に販売会についての案内を出す方向性を示す。 ・保護者に配布するチラシの作成をする。 ・(日程調整が可能であれば)大学の先生方を訪問し、名刺の受注を行う。 <p>本時 19, 20/24</p> <p>12/20 (月), 21 (火) (本時含む 4時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売会当日の役割分担で名刺注文の受け方や即日発行の仕方を販売、お客様側に分かれ、練習したり、見合ったりする。 ・練習の様子を動画を活用しながら振り返り、改善点を生徒同士が互いに見付けたり、話し合ったりする。

		1/19(水), 20(木) (4時間) ・同上
第3次 (名刺販売会の準備をしよう②) 1/21(金), 1/24(月)	6	・教員等, 総合サービス業班以外の第三者を相手に接客練習を行う。都度, 助言や意見をもらう。 ・練習の様子を動画や写真で振り返り, 改善点を見付けたり, 話し合ったりする。 ・宣伝方法や集客の方法を話し合う。 ・販売会の会場準備を行う。
第4次 名刺販売会 1/25(火)	2	・大学生協で名刺販売ブースを設け, 販売会をする。
第5次 (事後学習) 1/26(水), 1/27(木)	6	・販売会の様子を動画で振り返ったり, 感想を発表したりする。 ・即日発行ができなかった名刺や受注中の名刺の製作をする。 ・今後の学習について知る。

5 本時の計画

(1) 小単元名

「名刺販売会の準備をしよう①」

(2) 本時の目標

観 点	目 標
知識及び技能	決められた手順に沿って名刺の受注・製作をすることができる。
思考力・判断力・表現力等	接客の実践を通して, 気付いたことや考えたことを伝えることができる。

(3) 生徒の様子, 目標, 手立て・評価

対象生徒	本時にかかわる生徒の様子	個別の指導計画		評価の観点
		本時の目標	手立て	
A	障害種別 : 知的障害, 自閉症 ○田中ビネー知能検査V (2019.2.21 実施: 北部発達相談センター) IQ53 ○S-M社会生活能力検査 (身辺自立11-6, 移動13-0 作業10-2, 意思交換13-0 集団参加12-6, 自己統制13-0) ・周囲に合わせて行動ができるが, 自分の思いをうまく表現することが難しい。 ・相手や場に応じた言葉遣いやかかわりができる。 ・後輩や物腰の柔らかい相手であれば, 自分の思いや考えを丁寧に伝えることができる。 ・職業A職業生活I職業 高等部1段階 ・国語A聞くこと・話すことエ高等部1段階	・自分の役割を踏まえ, 気付いたことや改善点, 全体や自分の成長した部分を考え, 伝えることができる。 [思・判・表]	・接客練習の様子をタブレット型端末で撮影し, 振り返る時間を設ける。練習→振り返りを繰り返すことで, 以前の自分及び班員の様子を比べられるようにする。	・接客練習をする中で, 気付いたことや前回との違いなどの気付きを伝えることができたか。 [思・判・表]
B	障害種別 : 知的障害, 自閉症 ○田中ビネー知能検査V (2020.3.26 実施: 北部発達相談センター) IQ35 ○S-M社会生活能力検査 (身辺自立10-6, 移動10-2 作業8-0, 意思交換6-2, 集団参加6-8, 自己統制10-0) ・教えられたことや助言を素直に受け止め, 生かそうとすることができる。 ・初めての作業や動きにぎこちなさがあるが, 繰り返し練習すると定着することが多くある。 ・簡単な指示は理解できるが, 一斉指示だけでなく個別での指示が必要なときがある。 ・職業A職業生活I職業 中学部1段階 ・国語A聞くこと・話すことエ小学部3段階	・受付マニュアルに沿った話し方で接客練習することができる。 [知識及び技能]	・接客を行う際に, 話すことの内容や, 受付の流れをマニュアルに示すことで, 読みながら進められるようにする。	・マニュアルに沿った手順, 話し方で, 受付作業を進めることができたか。 [知識及び技能]

C	<p>障害種別 ：知的障害，自閉症 ○WISC-IV (2019. 7. 12 実施：北部発達相談センター) FSIQ:80 VCI:68 PRI:82 WMI:112 PSI:81</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名刺の手書きデザインを担当。任された作業に集中して取り組むことができる。 ・一斉指示において，指示の大枠は理解することができるが，分からないことがあっても，自分なりの解釈で進めることで，修正が必要な場合がある。 ・職業Aイ職業(イ)⑨高等部1段階 	<ul style="list-style-type: none"> ・改善点を意識しながら，作業内容の効率化を図り，班員と相談したり，確認したりしながら作業に取り組む。 〔思・判・表〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の担当する作業の状況に合わせて，はがしや梱包などの他の工程を手伝うよう促す。また，他の作業を手伝う際には，教師や周囲の班員に確認を取ってから行うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改善すべき点を振り返り，作業が円滑に進むよう，班員と相談や確認を取りながら，作業に取り組むことができたか。 〔思・判・表〕
D	<p>障害種別 ：知的障害，自閉症 ○WISC-IV (2019. 7. 18 実施：南部発達支援センター) FSIQ59, VCI66, PRI68, WNI60, PSI70</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手先が不器用な面もあるが作業への集中力があり，一定時間の中で決められた数の作業をこなすことができる。 ・名刺製作では，PCを使つての入力作業を行うことができる。漢字の読み方や変換に慣くことがあり，作業を止めてしまうことがある。また，確認不足で小さなミスを繰り返すことがある。 ・職業A職業生活イ職業 高等部2段階 ・国語 知識及び技能ウ(ウ)④高等部2段階 	<ul style="list-style-type: none"> ・名刺製作の際に，文字の大きさや配列などを決めてから，入力作業をすることができる。 〔知識及び技能〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・名刺製作の際に，一定のバランスや基本的なルールを改めて確認する。必要に応じマニュアルを活用したり，他の班員に聞いたりしながら作業を進められるように作業中のルールを設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入力する前に，名刺製作に必要な情報を整理してから，入力作業をすることができたか。 〔知識及び技能〕
E	<p>障害種別 ：知的障害，自閉症 ○WISC-IV (2018. 8. 27 実施：北部発達支援センター) FSIQ58</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業班の副リーダーとして，打合せの進行を進行表を見ながら行うことができる。 ・名刺の製作では，クラフトパンチや梱包作業等，注意すべき点を自分で確認しながら作業をすることができる。 ・ペアでの作業を設け，班員と声を掛け合いながら作業をする場面を増やしてきたが気を遣い自分の考えを伝えられないことがある。 ・職業A職業生活イ職業 高等部2段階 ・国語A聞くこと・話すことオ高等部2段階 	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックリストを活用しながら，改善点について自分の考えが伝わるように，工夫することができる。 〔思・判・表〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様側の視点として，チェックリスト等を設け，気になる点や改善できそうな部分を客観的な見方で見付ける手掛かりを与える。また，役割分担ごとの様子を見て気付いたことを確認するなど，見る部分を焦点化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックリストの項目に沿って話の要点をまとめたりしながら，言いたいことが伝わるように工夫することができたか。 〔思・判・表〕
F	<p>障害種別 ：知的障害，自閉症 ○田中ピネー知能検査V (H29. 12. 20) IQ:85 MA:99</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名刺製作ではPCを使つての入力作業を担当。PCの扱いなどに詳しく意欲的だが，確認をせずに自分の判断で作業を進めることがある。 ・後輩やペアとなった生徒に作業で気を付けることを教えたり，質問に答えたりするなど自分のもっている知識を伝えることができる。 ・職業A職業生活イ職業 高等部2段階 ・国語A聞くこと・話すことオ高等部2段階 	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様の立場から，気付いたことを伝え，作業全体の改善につなげることができる。 〔思・判・表〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様側の視点として，チェックリスト等を設け，気になる点や改善できそうな部分を客観的な見方で見付ける手掛かりを与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックリストなどを活用して，お客様側から見えた視点や気付きを班員に伝え，作業の改善につなげることができたか。 〔思・判・表〕
G	<p>障害種別 ：知的障害，自閉症 ○WISC-IV (H28. 11. 4) FSIQ:60</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業班のリーダーとして，打合せの進行や，終了時間等の呼びかけをするなど，周囲を見て行動することができる。時折，自分の作業よりも他者の作業を気にしすぎることがある。 ・名刺製作では，PC入力以外の一連の作業を状況に合わせて担当。 ・職業A職業生活イ職業 高等部2段階 ・国語A聞くこと・話すことオ高等部2段階 	<ul style="list-style-type: none"> ・接客側の立場から気付いたことを伝え，作業全体の改善につなげることができる。 〔思・判・表〕 	<ul style="list-style-type: none"> ・接客練習の際，全体を調整する役割を設定し，周囲の状況を全体的に見て動くことができるようにする。また接客側のよかつた点や困り感を全体で共有する場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・接客する様子や作業中に見えた視点，気付きを班員に伝え，作業の改善につなげることができたか。 〔思・判・表〕

H	障害種別 : 知的障害, 自閉症 ・見通しが立つと作業に集中し, 継続して取り組むことができる。名刺製作では, 台紙からはがす作業や梱包の作業を担当。 ・一斉指示のみでの理解は難しいが, スケジュールボードや, 視覚的な支援(文字)で支援を行うと理解することができる。 ・職業A職業生活(イ) 中学部1段階	・自分の役割に見通しをもって取り組むことができる。 [知識及び技能]	・役割の詳細をプリントで提示し, 作業内容, 報告の仕方や待機時間の過ごし方を確認する。	・座って待つことまでを含めて, はがしの作業に取り組むことができる。 [知識及び技能]
---	---	---------------------------------------	--	--

(4) 学習過程 (別紙1)

(5) 本時の評価

①生徒の評価

観点	目標
知識及び技能	決められた手順に沿って名刺の受注・製作をすることができたか。
思考力・判断力・表現力等	改善点を意識しながら, 自分の役割に責任をもって取り組めたか。

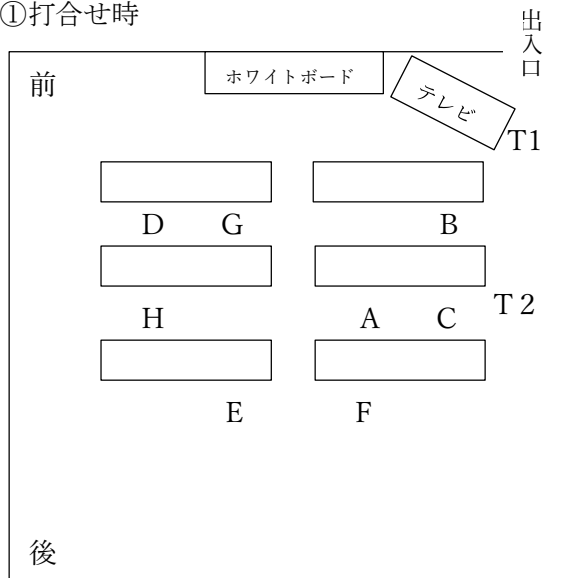
②教師の評価

- ・目標設定, 学習内容, 指導方法, 教材・教具は適切であったか。
- ・個に応じた指導を適切に行うことができたか。

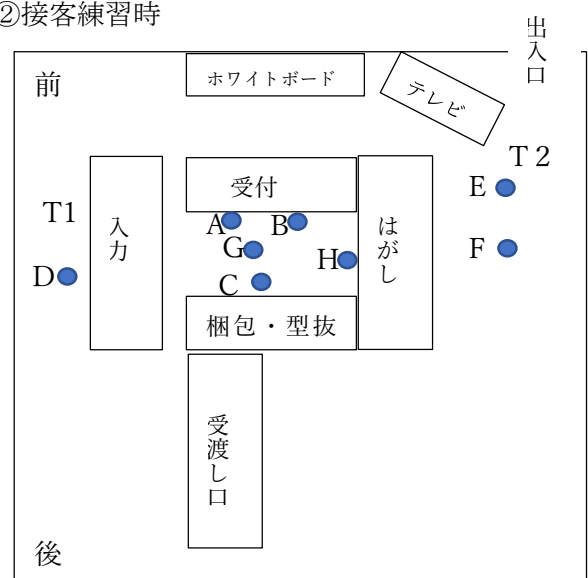
(6) 場の設定

○場の設定

①打合せ時



②接客練習時



○準備物

長机5, 椅子10程度, パソコン2台, プリンター2台, 注文用紙セット(注文票, チラシ, 説明), かご10程度, 名刺梱包用袋, 納品書, 領収書等

(4) 学習過程 (別紙1) ※ は検討会で主に話す抽出生徒

区分 配時	全体の学習活動 (T1)	○児童生徒の学習活動 ●：教師の支援							評価の場面	
		生徒A	生徒B	生徒C	生徒D	生徒E	生徒F	生徒G	生徒H	
導入 10:40 (15分)	1 始めの挨拶 ・日直の生徒に始めの挨拶をするよう伝える。 2 朝の打合せ ・学習計画を提示し、本時の学習内容や目標を確認する。 3 ラジオ体操	生徒A	生徒B	生徒C	生徒D	生徒E	生徒F	生徒G	生徒H	
展開 10:55 (50分)	4 前時の振り返り ・前時までに出了良かった点や改善点を確認する。 5 接客練習① ・生徒E、Fがお客様側となり、残りの班員は接客側として、練習をする。	○受付の役割を担当し、接客練習に取り組む。 ●必要ときには、生徒G→教師の順で確認、相談をするように設定する。 改善点や成長した部分を考え、伝えることができたか。(思・判・表)	○受付の役割を担当し、接客練習に取り組む。 ●受付マニュアルを準備し、流れに沿って受付ができるようにする。 受付マニュアルに沿って受付をすることができたか。(知・技)	○名刺の型を抜く役割を担当し、接客練習に取り組む。 ●作業が終わった後に、班員や教師に製品の質を確認できるようにする。	○入力の役割を担当し、接客練習に取り組む。 ●製作マニュアル準備し必要に応じて活用するよう促す。 文字の大きさや配列を決めてから、入力作業をすることができたか。(知・技)	○お客様役として接客練習に取り組む。 ●お客様視点のチェックリストを活用して、練習に取り組めるようにする。 ●お客様視点のチェックリストや動画で振り返りをする。役割分担ごとで気付いたことなど、見る視点を焦点化し、意見を伝えられるようにする。	○お客様として、接客練習に取り組む。 ●お客様視点のチェックリストを活用して、練習に取り組めるようにする。 ●お客様視点のチェックリストや動画で振り返りをする。ことを知らせる。	●気を付けるべき点を班員と一緒に決めて、まとめるように促す。 ○梱包、名刺の型を抜く役割を担当し接客練習に取り組む。 ●名刺が印刷されるまでの間など、他の担当の様子を見て、補助に入りたり、動いたりできるように役割を設定する。	●役割の詳細をプリントで提示し、作業内容、報告の仕方や待機時間の過ごし方を確認する。 ○台紙から名刺をはがす役割を担当し、接客練習に取り組む。 ●待機中は座って自分の仕事を持つことをプリントで適宜、確認し、はがしの作業が来るまで待つことへの見直しをもてるようにする。	
まとめ 11:50 (10分)	6 練習①の振り返りと練習② ・練習①を撮影した動画を見ながら振り返りを行う。 ・振り返りで出てきた意見に注意しながら、①と同じ編成で接客練習②を行う。 7 片付け、日誌記入 8 終わりの打ち合わせ 9 終わりの挨拶	○練習①を撮影した映像を見ながら、振り返りを行い、練習②をする。 ●前時までに出了きた改善点を基にし、振り返るようにし、全体に発表する場を設ける。 ○片付けと日誌の記入をする。	○他の分担当を手伝うことを念頭に作業に取り組みよう伝える。 作業の効率化を図り、相談したり、確認したりしながら作業に取り組むことができたか。(思・判・表)	●分からないことがある際の確認する対象を班員→教師と段階的に分ける。	●気付きを班全体で取り上げ、他の班員の意見と合わせながら、練習に生かせるようにする。 改善点について自分の考えが伝わるように、工夫することができたか。(思・判・表)	●チェックリストの内容に合わせて、気付いたことを伝えるように促す。 お客様の立場から、気付いたことを伝え、改善につなげることができたか。(思・判・表)	●接客側の良かった点や困り感を全体で共有する場を設ける。 接客側の立場から、気付いたことを伝え、改善につなげることができたか。(思・判・表)	●気を付ける点の一つ選ぶよう促し意識すべきポイントを抑えられるようにする。 気を付けたいことを自分で選び役割に意欲的に取り組むことができたか。(思・判・表)		
		○日直の号令に合わせて、姿勢を正して挨拶をする。 ●立ち方や礼の仕方のポイントを示す。 ○始めの打合せを行い、本時の学習内容や役割分担を知り、学習の見直しをもつ。 ●教室前方のホワイトボードに学習の流れを示し、指差しをしながら確認をする。 ○ラジオ体操をする。	○接客について、前時までに出了意見を確認し、本時に気を付けたいことや頑張りたいことを共有する。 ●よかった点、改善点をまとめたシート(4つ切り画用紙)を提示し、これまでに出了ている意見を確認する。 ●声の大きさや接客態度、質、速さ等、大枠で気を付けたいところは何かを問い掛け、本時に意識すべきポイントを明確にする。	○接客について、前時までに出了意見を確認し、本時に気を付けたいことや頑張りたいことを共有する。 ●よかった点、改善点をまとめたシート(4つ切り画用紙)を提示し、これまでに出了ている意見を確認する。 ●声の大きさや接客態度、質、速さ等、大枠で気を付けたいところは何かを問い掛け、本時に意識すべきポイントを明確にする。	○接客について、前時までに出了意見を確認し、本時に気を付けたいことや頑張りたいことを共有する。 ●よかった点、改善点をまとめたシート(4つ切り画用紙)を提示し、これまでに出了ている意見を確認する。 ●声の大きさや接客態度、質、速さ等、大枠で気を付けたいところは何かを問い掛け、本時に意識すべきポイントを明確にする。	○接客について、前時までに出了意見を確認し、本時に気を付けたいことや頑張りたいことを共有する。 ●よかった点、改善点をまとめたシート(4つ切り画用紙)を提示し、これまでに出了ている意見を確認する。 ●声の大きさや接客態度、質、速さ等、大枠で気を付けたいところは何かを問い掛け、本時に意識すべきポイントを明確にする。	○接客について、前時までに出了意見を確認し、本時に気を付けたいことや頑張りたいことを共有する。 ●よかった点、改善点をまとめたシート(4つ切り画用紙)を提示し、これまでに出了ている意見を確認する。 ●声の大きさや接客態度、質、速さ等、大枠で気を付けたいところは何かを問い掛け、本時に意識すべきポイントを明確にする。	○接客について、前時までに出了意見を確認し、本時に気を付けたいことや頑張りたいことを共有する。 ●よかった点、改善点をまとめたシート(4つ切り画用紙)を提示し、これまでに出了ている意見を確認する。 ●声の大きさや接客態度、質、速さ等、大枠で気を付けたいところは何かを問い掛け、本時に意識すべきポイントを明確にする。	○接客について、前時までに出了意見を確認し、本時に気を付けたいことや頑張りたいことを共有する。 ●よかった点、改善点をまとめたシート(4つ切り画用紙)を提示し、これまでに出了ている意見を確認する。 ●声の大きさや接客態度、質、速さ等、大枠で気を付けたいところは何かを問い掛け、本時に意識すべきポイントを明確にする。	

○日直の号令に合わせて、姿勢を正して挨拶をする。
 ●立ち方や礼の仕方のポイントを示す。

年度 令和 3	個人番号 高等部27	学部 高等部	学年 2	番号 7	名前 対象生徒A
---------------	---------------	-----------	---------	---------	-------------

<p>【長期目標設定の方針】個別の指導計画より 自分の意思を伝えられるようになり、周囲の環境を適切に活用したり、場を再現したりしながら適切なやり取りを主体的に重ね、コミュニケーションの力を高めたい。 自立した生活を送ることができるためのスキルを身に付けさせたいという保護者の願いから、様々な経験の機会を学校生活に取り入れ、生活スキルを伸ばしていきたい。 運動に継続して取り組み、体力の維持向上を図ってほしい。</p>
<p>長期目標 (3年後の目指す姿)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな立場の相手と楽しみながら、やり取りをすることができると。 ○一人でできることを増やし、自立した生活を送ることができると。 ○積極的に運動に取り組み、健康保持に努めることができると。
<p>短期目標 (年間の重点課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎様々な経験の中から、自立した生活に必要な衣食住の知識やスキルを身に付ける。

2 授業テーマ	年間指導計画 シート番号	30001
---------	--------------	-------

【作業学習】	単元名	名刺販売をしよう
<ul style="list-style-type: none"> 習得した事務作業の基礎的な技能を生かし、接客の態度など人とのかかわり方を身に付けることができる。(知識及び技能) 実践を通して、状況や場に応じた柔軟な対応ができる。(思考力、表現力等) 接客への関心をもち、最後まで取り組もうとする。(学びに向かう力、人間性等)主体的に学習に取り組む態度) 		

3 個別の教科の目標	【個別の指導計画】：関連教科・領域の目標(上段)／【個別の学習履歴】：関連教科・領域の目標(下段)
------------	---

国語	ウ 話の中心が明確になるよう話の構成を考えること、エ 相手に伝わるように、言葉の抑揚や強調、間の取り方などを工夫すること。
高等部 1 段階	
算数・数学	
小学部 1 段階	
社会	
小学部 1 段階	
職業・家庭	◎様々な作業を体験しながら、自分の適性や課題について考え、必要なスキルを身に付けていく。 ○将来の自立した家庭生活に必要な知識・技能を身に付ける。
高等部 1 段階	⑦ 作業や実習における役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現すること。
道徳科	
小学部 1 段階	
自立活動	◎伝えたいことを相手にやすやすと話ししたり、相手の話を聞き取りたりする力をつける。(6-②) ◎生活の中で活用できるように、言葉や数の理解力を高める。(4-④)

単元での個人目標1	設定なし
単元での個人目標2	設定なし

単元での個人目標1	
自分の役割を踏まえ、気付いたことや改善点、成長した部分を考え、班員に伝えることができる。	
学習の蓄積	学びの様子
表示No	
1	2021/12/06 受付を先輩と確認しながら進める。初めての接客に戸惑う様子が見られた。
表示No	
2	2021/12/07 受付マニュアルだけでは、足りない部分があることを気付く。全体に伝える。
表示No	
3	2021/12/09 保護者を相手に接客をしたことで、気付いた点を伝える。
表示No	
4	2021/12/14 前回の改善点から、うまくできたことを発表する。
表示No	
5	2021/12/15 後輩に、身振り手振りを付けて接客するといふことをアドバイスする。大学の先生方の研究室に受注に行ったが、緊張から認がままならず、あいまいなアドバイスになりうまく伝わらなかった。
表示No	
6	
表示No	
7	

設定なし	単元での個人目標2
------	-----------

学習の蓄積	学びの様子
表示No	
1	
表示No	
2	
表示No	
3	
表示No	
4	
表示No	
5	
表示No	
6	
表示No	
7	

QRコード
ZULJFKK_MCX

個別の学習履歴

QRコード
CMMVINKSHVIR

単元での個人目標1
記入はこちら

QRコード
ODERnlenDZB

単元での個人目標2
記入はこちら

QRコード
https://drive

単元の学習履歴
これまでに利用した学習履歴
学習の様子
身振り手振りはこちら

シート一覧
https://sites.02



年度 令和 3	個人番号 高等部13	学部 高等部	学年 1	番号 3	名前 対象生徒B
---------------	---------------	-----------	---------	---------	-------------

【長期目標設定の方針】個別の指導計画より	
・相手の質問や意見を理解しないだけでなく、「はい」で答えてしまう状態から、分らないことを相談する方法を示し、適切に自分のコミュニケーション能力を高められるようにしたい。	
・言葉、態度が増えたり正しいという保護者の願いから、話し方の具体的な例を取りだけでなく、相手に伝わるように、分かりやすく話す能力の向上を図ってきたい。	
・適性のある職場で働いてほしいという保護者の願いから、作業学習や職業の学習を中心に本人の適性を探り、職場で働く体験を設定し、興味・関心のある仕事を輩付け、働くことに対して意欲的な姿勢を養いたい。	
長期目標 (3年後の目標目安)	○場や相手に応じた話し方を知り、実践することができる。 ○自分の適性を知り、働くスキルを身に付けることができる。
短期目標 (年間の重点課題)	◎場や相手に応じた話し方を知り、身近な人とやり取りすることができる。

2 授業テーマ	年間指導計画 シート番号 30001
教科・領域	単元名 名刺販売をしよう
【作業学習】	
単元 の ね らい	・習得した事務作業の基礎的な技能を生かし、接客の態度など人とのかかわり方を身に付けることができる。(知識及び技能) ・実践を通して、状況や場に応じた柔軟な対応ができる。(思考力、判断力、表現力等) ・接客への関心をもち、最後まで取り組もうとする。(学びに向かう力、人間性等)主体的に学習に取り組む態度)

3 個別の教科の目標	【個別の指導計画】：関連教科・領域の目標(上段)／【個別の学習計画】：関連教科・領域の目標(下段)
国語	
小学部3段階	エ 挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。
算数・数学	
社会	
職業・家庭	○様々な仕事を体験し、得意なことや適性を気付くことができる。 ○簡単な家事に慣れ、生活スキルを高める。 ○衣服の補修(ボタン)の付け方や、手縫いの、簡単な洗濯の仕方を理解し、実践することができる。
中学部1段階	⑦ 職業生活に必要な知識や技能について知ること。
道徳科	
自立活動	◎場や相手に応じた話し方を知り、身近な人とやり取りすることができる。 ○自分の調子の理解を進め、健康管理していきとうとする。(1-④) (6-⑥)

単元での個人目標1	単元での個人目標2
受付マニュアルに沿った話し方で接客することができる。	設定なし

単元での個人目標1	
受付マニュアルに沿った話し方で接客することができる。	
学習の番積	学びの様子
表示No 1	2021/12/09 マニュアルを読むことに集中する。
表示No 2	2021/12/13 先輩に付け足しをしてもいいながら、接客ができる。
表示No 3	2021/12/14 マニュアルを簡略化したのが、変更した部分もあり、再度読むことに集中する。
表示No 4	2021/12/15 先輩に身振り手振りを付けるといいやとアドバイスを受け、受付を実践する。
表示No 5	
表示No 6	
表示No 7	
設定なし	

単元での個人目標2	
設定なし	
学習の番積	学びの様子
表示No 1	
表示No 2	
表示No 3	
表示No 4	
表示No 5	
表示No 6	
表示No 7	



h14c3z0Xaxk

個別の学習計画



個別の学習計画

単元での個人目標1

27人での記入はこちら



個別の学習計画

単元での個人目標2

集計シートへの直接記入はこちら



https://drive

個人の学習計画

これまでに使用した学習資料
学習の様子
身振り手振りはこちら

シート一覧
https://sites.02



おわりに

障害児養護学校義務化（1979年）から42年の月日を経て、障害児を取り巻く状況は大きく改善され、共生社会形成に向けた福祉関連法及び各種制度やサービスの整備充実が進んでいます。一方、障害児に対する教育の分野においても、特殊教育から特別支援教育へ、そしてインクルーシブ教育システム構築に向けた体制整備が着実に進んでいます。こうした世の中の追い風を受け、障害児の自立と社会参加を目指す特別支援教育推進に対する期待がますます大きくなっておりま

す。こうした中、本校では、社会の一員として、心豊かでたくましく生きる力を身に付けた子ども

の育成を目指して日々教育活動に取り組んでおります。児童生徒が各々、卒業後、地域社会において、「働く、暮らす、楽しむ」のそれぞれの領域において自己実現を果たしながら、日々成就感と自己有用感を実感して生活していく姿こそ我々の目指す子供の姿です。そうした子供たちを育むに当たり、教育活動において児童生徒一人一人の自己実現を支援していくことが強く求められています。

そこで、本校では、自己責任に基づいた自己決定する力を育み、児童生徒一人一人の卒業後の心豊かな生活への円滑な移行を図るため、「授業づくりシステム」を効果的に運用しながら個別の学習履歴の蓄積を確実に実践し、「個別最適な学び」の実現を目指す研究に取り組むことといたしました。本研究に取り組むに当たり、テーマ構想の段階から本大学の特別支援教育を専門とする教員全員の協力を得ながら、3年計画の研究に着手いたしました。本年度はその初年度に当たり、学内で関わる全員が、各々の見方考え方を率直に出し会い、向かうべきベクトルの共有に模索しているところであります。研究紀要をご一読いただき、さらには、公開研究会にご参加いただき、忌憚のない御意見御指導を頂戴できれば幸いです。

副校長 門脇 恵

令和3年度 研究同人

校長	高田 淑子	副校長	門脇 恵
教頭	遠藤 亮一	教務主任	大友 康徳
特別支援教育コーディネーター	渡部 明希	研究主任	梅津 直哉
上杉学習支援室長	川村 修弘	上杉学習支援室副室長	齋藤 江美
養護教諭	岩永 則子	栄養教諭	佐竹 由美

〈小学部〉

◎鈴木 真亀子
 ○平間 詞子
 及川 慧
 佐藤 勇太
 白鳥 紗和
 ○八木 俊信
 若生 若奈

〈中学部〉

◎鎌田 かおり
 ○佐藤 静佳
 河野 凜
 ○佐々木 俊輔
 熊谷 清子
 草刈 由香
 鈴木 浩史
 鹿島 仁美

〈高等部〉

◎菅原 しのぶ
 岩淵 友宣
 ○長谷 葉子
 ○村越 郁哉
 武山 潤子
 若部 友希
 板橋 努
 神山 貴子

〈支援員〉

平塚 修也
 木村 洋美
 鈴木 莉子
 早坂 千春

〈◎は主事〉

〈○は研究部〉

研究協力者 〈宮城教育大学〉

〈小〉 特任教授	佐藤 静	准教授	松崎 丈
准教授	三科 聡子	准教授	野崎 義和
〈中〉 教授	菅井 裕行	准教授	熊谷 亮
准教授	永井 伸幸		
〈高〉 教授	植木田 潤	准教授	寺本 淳志
特任准教授	武井 眞澄		